

ハ即納トス

第二十一條 新ニ營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ其ノ營業稅ヲ徵收ス

左ニ掲クル營業ヲ開始スル者ハ開業ノ翌年ヨリ尙三箇年間其ノ營業稅ヲ徵收セス但シ此稅法施行以前ヨリ營業スル者ニシテ其ノ開業ノ翌年ヨリ三箇年ニ滿タサルトキハ本項ニ準據スルコトヲ得

銀行業、保險業、倉庫業、製造業、印刷業、運送業、運河業、棧橋業、船渠業、船舶碇繋場業

第二十二條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始スル者ハ其ノ月ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納期ニ於テ現ニ營業スル者ヨリ營業稅ヲ徵收ス

第二十四條 營業者廢業スルトキハ其ノ廢業ノ月迄營業稅ヲ徵收ス但シ他ニ其ノ營業ヲ繼續スル者アルトキハ前條ニ依ル

第二十五條 第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於テ前ノ營業者第二十一條ノ期間内ニアルトキハ其期間ハ後ノ營業者ニ及フモノトス

第二十六條 政府ニ於テ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ算定シタルトキハ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第二十七條 前條ノ算定ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ申立テ再審査ヲ求ムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第二十八條 第十八條第三項ノ建物賃貸價格算定ニ付異議ノ申立アリタルトキハ評價人ヲ定メ之ヲ

評價セシム評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

評價人ハ四人トシ二人ハ政府ヨリ之ヲ命ジ二人ハ土地建物所在市町村長之ヲ選定ス但シ費用ハ本人ノ負擔トス

前項市町村長ノ職務ハ特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戸長、沖繩縣ニ於テハ役所長之ヲ行フ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ政府ニ其ノ由ヲ申立ツルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル資本金額、賣上金額、請負金額、報酬金額又ハ建物賃貸價格半額以上ヲ減シタルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員届出人員二分ノ一ニ減シタルトキ

第三十條 政府ハ前條ノ申出ニ由リ營業者ノ狀況ニ照シ營業稅ヲ減額スルノ必要アリト認ムルトキハ翌年一月迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 政府ハ第二十九條ノ申出ニ對シ翌年一月ニ於テ課稅標準ヲ查覈シ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ稅金ヲ減額スルコトヲ得

一 課稅ノ標準タル賣上金額、請負金額、報償金額ハ前々年中ノ總額資本金額、建物賃貸價格ハ前々年中ノ平均額ノ半額ニ達セサルトキ

二 課稅ノ標準タル從業者ノ人員其ノ最多數ノトキニ於テ届出人員ノ二分ノ一ニ達セサルトキ

課税標準ノ課税最低限以下ニ減シタル場合ニ於テモ仍其ノ割合ヲ以テ税金ヲ徴收ス

第三十二條 第一條ニ掲クル營業者ハ貨物ノ仕入、賣上、受入、貸付、廻送、從業者ノ人員及營業ニ關スル金錢ノ出納ヲ明ニスル爲帳簿ヲ備ヘ營業上一切ノ事實ヲ記載スヘシ

第三十三條 收税官吏ハ營業ニ關スル帳簿、物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ尋問スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ届出ヲ爲サス若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ故意ヲ以テ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其ノ脱税シタル者ハ脱税金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪、減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十六條 府縣ハ此ノ税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得此ノ附加税ハ外府縣税又ハ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

附則

第三十七條 此ノ税法ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第三十八條 明治二十九年年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ハ第三十六條ノ規定ニ依ルノ限ニ在ラス

明治二十九年年度ニ屬スル府縣税又ハ地方税ノ賦課ヲ受ケタル業體ニ對スル此ノ税法ノ營業税ハ明治三十年ニ限リ年額四分ノ三ヲ徴收ス

第三十九條 第二十条五月ノ納期ハ明治三十年ニ限リ七月トス

第四十條 第十五條第二項但書ノ規定ハ此ノ法律施行地ト此ノ法律ヲ施行セサル地トニ涉リ店舗其

ノ他ノ營業場數箇所アル場合ニ之ヲ準用ス(三十二年法律第三十二號ヲ以テ追加)

○營業税法施行規則明治二十九年七月勅令第二百六十九號

朕營業税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營業税法施行規則

第一條 營業税法第一條ノ營業ヲ爲ス者ニシテ同法第二條以下ノ規程ニ依リ營業税ヲ課セラル

ヘキ者ハ其ノ店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ「地方長官」ニ同法第十三條ノ届出ヲ爲スヘシ但シ

同法第十五條第二項末段ノ場合ニ於テハ其ノ主タル店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ「地方長官」

ニ届出ベシ

左ニ掲クル者ハ同法第十三條第一項但書ニ依リ開業後十日以内ニ「地方長官」ニ新規開業ノ届

出ヲ爲スヘシ

一 新ニ同法第一條ノ營業ヲ開始スル者

二 同法第十五條第二項末段ノ場合ニ該當セサル者ニシテ新ニ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設スル者

三 新ニ營業ノ種類ヲ増加スル者

第二條 同一人ニシテ數種ノ營業ヲ爲ストキハ店舗其ノ他ノ營業場ノ同一ナルト否トヲ問ハス

營業ノ種類並ニ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ區分シテ營業税法第十二條ノ課税標準ヲ計算スベ

シ但シ課税標準トナルハ新入ノ數種ノ營業ニ共通シテ使用スル場合ニ於テハ税率ノ最重キ營

業ノ稅率等シキハ其ノ重ナル營業ノ一方ニ其ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第三條 同一人ニシテ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ニ於テ同種ノ營業ヲ爲ストキハ各店舗其ノ他ノ營業場毎ニ營業稅法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第四條 營業稅法第十五條第二項末段ニ依リ數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ合セテ營業稅ヲ課セラルヘキ場合ニ於テハ總テノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ通シテ同法第十二條ノ課稅標準ヲ計算スヘシ

第五條 株式會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 合資會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル登記簿出資金額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

第七條 合名會社ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ前年中各月末ニ於ケル總社員ノ出資額及名義ノ何タルヲ問ハス各種ノ積立金額其ノ他積立金ノ性質ヲ有スル資産金額トシ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項總社員ノ出資額中勞力ノ出資アルトキハ其ノ價格ハ會社契約ニ定メタル價額ニ依ル但シ會社契約ニ其ノ勞力ノ價額ヲ定メサルトキハ各社員損益共分ノ割合ニ從ヒ之ヲ算定スルモノ

トス

第八條 一個人ニ於テ課稅標準トナスヘキ資本金額ハ他ヨリ借入レタルト否トヲ問ハス前年中各月末ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ月割平均ヲ以テ之ヲ算定ス

前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル土地、建物、築造物、船舶、諸器具、器械ノ價格ヲ計算ス其ノ價格ハ時價相當ノ見積金額ニ依ル

第九條 課稅標準額ヲ豫算スルトキハ届出當時ノ實況ニ依リ尙ホ過去將來ノ形情ヲ斟酌シテ之ヲ算出スヘシ

第十條 營業稅法第十七條ニ依リ控除スヘキ營業費ハ營業上直接ニ必要ト認ムヘキ費用ニ就テ算定スヘシ

第十一條 營業稅法第十八條第二項ノ場合ニ於テ借地料借家料ヲ支拂フニ金錢ニアラザル物品ヲ以テスルトキハ其ノ物品ノ時價ニ依リ之ヲ定ムヘシ

營業者借地ニ於テ自己ノ建物ヲ所有スルトキハ其ノ土地ハ營業稅法第十八條第二項ニ依リ建物同條第三項ニ依リ其ノ賃借價格ヲ計算スヘシ

營業者借家中ニ於テ其ノ建物ハ一部分ヲ所有スルトキハ自己所有ノ部分ハ營業稅法第十八條第三項ニ依リ其ノ建物賃借價格ヲ計算スヘシ建物中雜作全部ヲ借主ニ於テ所有スルトキ亦同シ

第十二條 從業者ハ營業主ヲ始メ店舖其ノ他ノ營業場ニ居住スルトキ否ト使役ノ當時タルハ臨時及永久ノ間ハス總テ直接ニ營業ニ從事スル者ヲ計算スヘシ但シ營業主ト同一戸籍内ニ在ル者

ハ計算セズ

第十三條 相續讓渡其ノ他原因ノ何カルヲ問ハズ營業ヲ繼續スル者ハ其ノ繼續後十日以内ニ「地方長官」ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第十四條 營業者住所氏名ヲ變更シ又ハ店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキハ十日以内ニ「地方長官」ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ其ノ移轉他ノ管轄地方ニ涉ルトキハ雙方ニ届出ヘシ

第十五條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニシテ店舗其ノ他ノ營業場ヲ増設シタル者ハ其ノ増設後十日以内ニ其ノ旨ヲ「地方長官」ニ届出ツヘシ

第十六條 「地方長官」ハ營業者ノ申告ヲ相當ト認ムルトキハ營業税法第十二條ノ稅率ニ從ヒ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

營業者ノ申告ナキトキハ「地方長官」ハ營業税法第十六條ノ算定方法ニ依リ其ノ課稅標準ヲ計算シ其ノ營業稅ヲ賦課スヘシ

第十七條 「地方長官」ハ營業者ノ申告ヲ不相當ト認メ資本金額又ハ建物賃貸價格ヲ算定シタルトキハ其ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ營業者ニ通知スヘシ

第十八條 前條ノ算定ニ對シ異議アル者再審査ヲ求メントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ營業税法第二十七條ノ期限内ニ「地方長官」ニ申出ヘシ

第十九條 「地方長官」ハ資本金額再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ更ニ營業者ノ提出シタル理由書ニ據リ當初ノ算定ヲ再査シ其ノ訂正スヘキハ之ヲ訂正シ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通

知スヘシ

第二十條 「地方長官」ハ建物賃貸價格再審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ土地建物所在地ノ市町村長ニ通知シ評價人ヲ選定セシメ同時ニ政府ヨリ命スヘキ評價人ヲ選定スヘシ

第二十一條 評價人ハ滿二十歳以上ノ男子ニ就テ選定スヘシ但シ異議申立人ノ親族其ノ他當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者及治産ヲ禁ラ受ケタル者ハ之ヲ選定スルコトヲ得ズ

土地建物以數市町村ニ在リテ其ノ賃貸價格ヲ合算スル場合ニ於テハ其ノ所在市町村毎ニ評價人ヲ選定スルコトヲ得

第二十二條 評價人定メタル後ハ「地方長官」ハ場所期日ヲ定メ評價人ヲ會合シ其ノ評價ヲ爲サシムヘシ

評價人評價ヲ終シタルトキハ直ニ評價書ヲ作り評價金額並ニ其ノ理由ヲ記載シ「地方長官」ニ提出ストシ

「地方長官」ハ前項評價書ニ依リ建物賃貸價格ヲ定メ其ノ決定書ヲ作り之ヲ異議申立人ニ通知ストシ

第二十三條 營業税法第十五條第二項末段ニ該當スル場合ニ於テ營業者數箇ノ店舗其ノ他ノ營業場ヲ有シ其ノ管轄地方ヲ異ニスルトキハ其ノ資本金額建物賃貸價格ノ算定審査ニ關スル事

務ハ其ノ主たる店舗其ノ他ノ營業場所在地ノ「地方長官」之ヲ爲スヘシ但シ建物賃貸價格ノ評價ニ關スル事務ハ之ヲ土地建物所在地ノ「地方長官」ニ屬託スヘシ

第五十四條 營業稅法第二十八條第二項但書ニ依リ異議申立入ノ負擔スヘキ費用ハ評價人ノ手

滯及評價人集會ノ費用トシテ(營業者ノ集會ニ關シテ其ノ費用ハ營業者ノ負擔スルコトニ依リ)營業者ノ負擔スル

第二十五條 前條評價人ノ手當ハ毎事件ニ入金二圓五十錢トシ評價人集會ノ費用ハ會場借料並

第三會場雜費ニ限ルコトトシ(營業者ノ集會ニ關シテ其ノ費用ハ營業者ノ負擔スルコトニ依リ)營業者ノ負擔スル

第二十六條 營業者ヨリ營業稅法第二十九條ノ申出アリタルトキハ「地方長官」ハ課稅標準額算

定ノ方法ニ依リ其ノ年營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スル

營業ノ其ノ課稅標準額ノ全部ヲ改算スヘシ

第二十七條 營業者店舗其ノ他ノ營業場外ニ居住シ又ハ旅行シ店舗其ノ他ノ營業場ニ不在ナル

トキハ營業稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ「地方長官」ニ届出ヘシ

第二十八條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ「地

方長官」ノ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

附則 則チ營業者ハ營業稅法第三十三條ノ規定ニ依リ營業ノ實況ヲ調査シ同法第三十一條第一號又ハ同條第二號ニ該當スル

第三十九條 營業稅法第三十二條第二項但書ニ該當スル營業者ハ同法第十三條ノ届書ニ要スル

諸事項ヲ詳記シタル書類ヲ添ヘ明治三十年一月三十一日迄ニ「地方長官」ニ其ノ開業年月日ヲ届

出シタル書類ハ營業者ノ負擔スルコトトシ(營業者ノ負擔スルコトニ依リ)營業者ノ負擔スル

第二十九條 營業稅法第三十三條ニ依リ收稅官吏營業ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルトキハ「地

方長官」ノ檢査章ヲ其ノ營業者ニ示スヘシ

○所得稅法 明治三十二年二月 法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル所得稅法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得

稅ヲ納ムル義務アルモノトシ(營業者ノ義務ハ營業稅法ニ依リ)營業者ノ義務ハ營業稅法ニ依リ

第二條 前條ニ該當セザル者此ノ法律施行地ニ資産營業又ハ職業ヲ有スルトキハ其ノ所得ニ付テノ

ミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトシ(營業者ノ義務ハ營業稅法ニ依リ)營業者ノ義務ハ營業稅法ニ依リ

第三條 前條所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(同法第三十條ノ規定ニ依リ)營業者ノ義務ハ營業稅法ニ依リ

第一種 所得稅法ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(同法第三十條ノ規定ニ依リ)營業者ノ義務ハ營業稅法ニ依リ

第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子 千分ノ二十

第三種 前各各種ノ屬モ亦亦所得 千分ノ二十五

半萬圓以上 千分ノ五十五

五萬圓以上 千分ノ五十

三萬圓以上 千分ノ四十五

二萬圓以上 千分ノ四十

一萬五千圓以上 千分ノ三十五

一萬圓以上 千分ノ三十

五千圓以上	千分ノ三十五
三千圓以上	千分ノ三十
二千圓以上	千分ノ廿七
千圓以上	千分ノ廿五
五百圓以上	千分ノ廿二
五百圓以下	千分ノ十

戸主及其同居家族ノ所得第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戸主別
 居スル家族ニ次以テ同居スル者亦同シ

第四條 所得ハ左列區別ニ從ヒ之ヲ算定ス
 第一種 各種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除
 第二種 各種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

第三種 各種ノ所得ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算
 第四種 各種ノ所得ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算
 第五種 各種ノ所得ハ其ノ收入額ノ豫算年額ニ依リ田畑ヨリノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算

出スヘシ

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラルタル法人ヨリ受ケタル配當金及
 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條 左ニ掲ケル所得ハ所得稅ヲ課セス
 一 軍人從軍中ニ係ル所得
 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給
 三 旅費學費及法定扶養料
 四 營利ヲ目的トセザル法人ノ所得
 五 營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得
 六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セザル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地
 七 本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其
 ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 納稅義務アル法人ハ各事業年度毎ニ損益計算書ヲ政府ニ提出スヘシ但シ第二條ニ該當スル
 法人ハ各事業年度毎ニ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シ其ノ計算書ヲ
 政府ニ提出スヘシ

第八條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告ス

第九條 第一種ノ所得金額ハ損益計算書ヲ調査シ政府之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府之ヲ決定ス

第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 調査委員ハ調査委員選舉人ノ選舉ス

第十三條 調査委員ノ選舉區域ハ稅務署ノ管轄區域ニ依ル

第十四條 調査委員選舉人ノ選舉區域ハ市町村ノ區域ニ依リ東京市京都市大阪市札幌區函館區ニ在テハ區ノ區域ニ依ル

第十五條 選舉區域内ニ住居シ第八條ノ申告ヲ爲シタル者ハ調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ調査委員選舉人ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ニ記載スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者
二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘタル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一箇年ヲ經サル者

四 剽奪公權者及停止公權者

五 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者

六 第四十六條ニ依リ處罰セラレタル後五箇年ヲ經サル者

第十五條 調査委員選舉人ノ定數ハ其ノ選舉區域内ニ於ケル第八條ノ申告ヲ爲シタル者十人ニ付一人トス但シ申告者二百人以上ナルトキハ二十人ニ止メ申告者十人未滿ナルトキハ一人トス

第十六條 調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ執行シ調査委員ノ選舉事務ハ稅務署長之ヲ執行ス

第十七條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第十八條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 調査委員選舉人ノ選舉終了シタルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十一條 稅務署長ハ選舉期日ヲ定メ少クトモ七日前ニ公示シ調査委員及之ノ同數ノ補闕員ノ選舉ヲ行ハシムヘシ

前項ノ選舉ニ關シテハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示ス

第二十三條 調査委員及補闕員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十四條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス但シ第一回ノ改選期ニ於テハ抽籤ヲ以テ其ノ退任者ヲ定ム

補闕員ハ二年毎ニ之ヲ改選ス

調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ數最モ多キ補闕員ヨリ順次之ヲ補充ス但シ投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナラバ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

補闕員ヨリ調査委員トナリタル者ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十五條 調査委員會ハ通クトモ毎年八月一日マテニ開會スルヲ要ス

第二十六條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十七條 調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉ス

第二十八條 調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニテラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 調査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第三十條 八月三十一日マテニ調査委員會成立セサルカ又ハ調査終了セサルトキハ所得金額調査未済ノ者ニ付テハ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十一條 政府ハ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査ニ付シタル日ヨリ十五日以内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十三條 調査委員ニハ日常及旅費ヲ支給ス

第三十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十五條 政府ハ第一種及第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知ス

第三十六條 納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織ス
審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第三十八條 納稅義務者ハ第三十六條ノ審査ヲ求メタル場合ト雖通知ヲ受ケタル所得金額ニ依リ税金ヲ納ムヘシ

第三十九條 所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第四十條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者所得金額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ申出テ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過クルトキハ所得金額ノ更訂ヲ求ムルコトヲ得ス

第四十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ所得金額ヲ査覈シ決定額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アリタルトキハ所得金額ヲ更訂ス

第四十二條 第一種ノ所得ニ付テハ各事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ其都度之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ二分シ其ノ年九月及翌年三月之ヲ徵收ス但シ納稅者納稅管理人ヲ定メシテ帝國外ニ住所ヲ移ストキハ其ノ際直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條 第四十條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ確定ニ至ルマテ税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四十四條 第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ本人住所ノ地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス但シ納稅者ハ申告シテ住所又ハ居所以外ノ地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ法律施行地ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第四十五條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ其ノ所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲ニ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ通稅シタル者ハ其ノ通稅金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其ノ税金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノトス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第四十九條 明治二十年勅令第五號所得稅法ハ明治三十一年分所得稅限リ廢止ス

第五十條 此ノ法律ハ沖繩縣小笠原島及伊豆七島ニ當分ニ之ヲ施行セス

○所得稅法施行規則

朕所得稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法施行規則

第二條 所得稅法第四條第一項第三號ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキモノハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費、其ノ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他其ノ收入ヲ得ルニ必要ナル經費ニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第二條 第三種ノ所得金額ハ申告ノ調査又ハ決定當時ノ現況ニ依リ所得税法第五條ノ所得ヲ除キ之ヲ算出スヘシ

第三條 納稅義務アル法人ハ每事業年度通常總會後七日以内ニ損益計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類及金額ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ其ノ所得ヲ區分シ同時ニ之ヲ申告スヘシ

第五條 所得調査委員ノ定數ハ五人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得

第六條 稅務署長ハ調査委員選舉人ノ選舉前選舉資格ヲ有スル者ノ住所氏名ヲ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ

第七條 調査委員選舉人ノ選舉ヲ執行スルトキハ市區町村長又ハ戶長ハ其ノ選舉資格ヲ有スル者二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第八條 調査委員ノ選舉又執行スルトキハ稅務署長ハ調査委員選舉人二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第九條 調査委員選舉人及調査委員ノ選舉ニ於テ投票ニ記載シタル人員其ノ選舉スヘキ定數ニ超ニタルトキハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次棄却スヘシ

第十條 調査委員又ハ補關員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ稅務管理局長ニ於テ已ムヲ得スト認ムヘキ事故アル者ニ限ル

第十一條 調査委員會ノ會長出席セザルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十二條 調査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第十三條 稅務管理局長ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十四條 所得稅法第三十六條ニ依リ審査ヲ求メトスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ稅務管理局長ニ申出スヘシ

第十五條 各稅務管理局所轄内ニ審査委員會ヲ置ク

第十六條 收稅官吏ヲ以テスヘキ審査委員ハ大藏大臣之ヲ命シ調査委員ヲ以テスヘキ審査委員ハ稅務管理局所轄内ノ調査委員毎年之ヲ選舉ス

第十七條 審査委員ノ選舉事務ハ稅務管理局長之ヲ執行ス

第十八條 審査委員ノ選舉ヲ執行セムトスルトキハ稅務管理局長選舉期日ヲ定メ所轄内調査委員ノ氏名ト共ニ之ヲ各調査委員會ニ通知スヘシ

第十九條 選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第二十條 稅務管理局長ハ所轄内調査委員二人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ

第二十一條 選舉ハ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 審査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務管理局長ハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十三條 審査委員會ハ稅務管理局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第二十四條 審査委員會ハ毎年開會ノ初ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第二十五條 審査委員會ハ定員ノ過半数ニ當ル委員出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十六條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第二十七條 審査委員ハ自己ノ所得金ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第二十八條 稅務管理局長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十九條 審査委員會ノ決議ハ會長ヨリ之ヲ稅務管理局長ニ通知スヘシ

第三十條 稅務管理局長ハ所得稅法第三十七條ニ依リ所得金額ヲ決定シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十一條 納稅義務アル法人損益計算書ヲ提出セサルトキハ政府其ノ損益ヲ調査シ其ノ所得金額ヲ定ム

第三十二條 所得稅ハ所得稅法第九條第三十條第三十一條ニ依ル決定金額ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セズ
第三十三條 所得稅法第三條第二項ノ場合ニ於テ同居者所得金額決定後別居スルモ所得金額決定當時ノ稅率ニ依リ其ノ年々所得稅ヲ納ムヘシ

第三十四條 公ニ募集シタル公債社債ノ利子ヲ支拂フ者ハ支拂ノ際所得稅金額ヲ控除スヘシ

第三十五條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ取得シタルトキハ

其ノ發行者又ハ譲渡人ノ證明ヲ得テ之ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知シ其ノ所有ヲ證明スヘシ但

シ從來無記名ノ公債證券又ハ社債券ヲ所有スル者ハ本令施行ノ際利子支拂ノ取扱所ニ通知シ

價宜ノ方法ニ依リ其ノ所有ヲ證明スヘシ

第三十六條 府縣郡市區町村其ノ他公共ノ團體若ハ組合又ハ會社ニ於テ公債社債ノ利子ニ付所

得稅ヲ徵收シタルトキハ直チニ拂込普及計算書ヲ添ヘ之ヲ其ノ所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

國債利子支拂ノ取扱銀行ニ於テ國債ノ利子ニ付所得稅ヲ徵收シタルトキハ大藏大臣ノ命令ニ

依リ之ヲ本店所在地ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十七條 所得稅法第四十條ノ申出アリタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ年所得ノ實況ヲ調査

シ所得金額四分ノ一以上ノ減損アルトキハ所得金額ヲ更正シ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三十八條 前期納稅後所得金額ノ變更ニ因リ所得稅金額ヲ減シタルトキハ既納ノ税金金額以上

ナルトキハ其ノ超過額ヲ還付シ金額以下ナルトキハ後納期ニ於テ其ノ不足額ヲ徵收スヘシ

第三十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者納稅地ノ稅務署管轄以外ニ於テ所得ヲ取得スル

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額四分ノ一

第二期 十月十六日ヨリ同三十一日限

同上

第三期 翌年二月十六日ヨリ同二十八日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額二分ノ一

第四期 翌年三月十六日ヨリ同三十一日限

前納額ノ殘數

第七條 政府ハ酒類ヲ製造スル者脫稅又ハ連稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ若ハ納稅保證物ノ除ヲ得スシテ保證物ノ提供ヲ爲ササルトキハ前條ノ納期ニ拘ラス造石稅ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得(全)

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス

酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内ノ滓引減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ保證物件ニ就キ之ヲ査定ス

第九條 粕澗シタル酒類ハ粕澗ニ依リ増加シタル分ノミニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル釀ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造

石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セララルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第十一條 酒類ヲ製造スル者既ニ査定ヲ受ケタル酒類ノ造石數ニ對シテハ特ニ法律ヲ以テ定ムル場合ノ外其ノ造石稅ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス(三十二年法律第二十三號ヲ以テ各項トモ改正)

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 腐敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三 腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ第二種ノ酒類ノ製造

ニ供スルモノ

四 容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脱去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第十三條 酒類ヲ製造スル者ハ納稅保證トシテ一酒造年度見込造石數一石ニ付金四圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ニ相當スル保證物ヲ豫メ提供スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケ造石數査定ノ都度本條ノ割合ヲ以テ保證物ヲ提供スルコトヲ得(全)
毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數前項ノ見込造石數ヨリ十石以上増加シタルトキハ其ノ石數

ニ應シ前項ノ割合ニ依リ保證物ヲ増補スルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 毎酒造年度ノ見込造石數又ハ査定石數第一項ノ見込造石數ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 數ニ應シ第一項ノ割合ニ依リ保證物ヲ減少シ得ルコトヲ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 酒類ヲ製造スル者此ノ法律ヲ犯シテ處罰セラレタル者又ハ造石税ニ關シテ滞納處分收受ケル
 四キニ滿後三年間政府公造石税全額ヲ以テ保證物提供シ命スルコトヲ得
 前三項ノ場合及保證物ノ價格ニ異動ヲ生シタル場合ヲ除クノ外保證物ノ増減ヲ爲サス
 保證物ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十四條 左ノ場合ニ於テハ保證物ヲ免除スル事ヲ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 一 相當ノ納税保證人ヲ供シタルトキ
 二 納税保證トシテ造石税額ニ相當スル酒類ヲ保存スルトキ
 三 造石税ヲ前納シタルトキ
 四 酒類ヲ製造スル者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ擔保シタルトキ(三十二年法律第二十
 三號ヲ以テ本號追加)
 第十五條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ納メサルニ依リ滞納處分ヲ執行スルキハ先ツ保證物又ハ保
 存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ公賣シテ税金ヲ徵收スヘシ但シ保證物又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ價
 格徵收スヘキ税金額及滞納處分費ニ對シ不足アリト認めルトキハ同時ニ他ノ財産ニ就キ滞納處分
 ノ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス(三十二年法律第二
 十三號ヲ以テ改正)
 第十六條 酒類ヲ製造スル者造石税ヲ完納スル能ハサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒

造組合ノ各組合員ノ納税者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス(三十二年法律第二十
 三號ヲ以テ本號追加)
 第十七條 酒類ヲ製造スル者納税保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、
 消費シ又ハ製造場外ニ移出シタルトキ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 第十八條 酒類ヲ製造スル者造石稅數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製
 造場外ニ移出シタルトキ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 第十九條 收税官吏ハ命令ヲ規程ニ依リ酒類ヲ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要
 諸手帳建築物材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要處分ヲ爲スル事ヲ得ルハ其額ハ前項ノ額
 第二十條 酒類ヲ製造セザル者酒母又ハ醗ヲ製造シタルトキ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 第二十一條 酒類ヲ製造セザル者酒母又ハ醗ヲ製造シタルトキ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 第二十二條 酒類ヲ製造セザル者酒母又ハ醗ヲ製造シタルトキ得ルハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十
 三號ヲ以テ改正)
 前項ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯則者處分法第二十一條ニ依リ處分セラレタル者其
 造石數ニ應シ造石税ヲ課ス但シ酒母、醗ハ第四條第一種ノ税率ニ從フ
 前項ノ造石税ハ其ノ際直ニ之ヲ納メタルトキハ其額ハ前項ノ額ヨリ十石以上減少シタルトキハ其ノ石
 第二十三條 酒類ヲ製造セザル者免許ヲ受ケスシテ酒母又ハ醗ヲ製造シタルトキハ十圓以上二百圓

以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十三號ヲ以テ百圓ヲ二百圓ニ改メ)

第二十三條ノ二 酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十號ヲ以テ本條追加)

第二十三條ノ三 前二條ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯罪者處分法第十一條ニ依リ處分セラレタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係ル總石數ノ造石稅ヲ課ス(上同)

前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ(上同)

第二十四條 酒類ヲ製造スル者昨偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十五條 酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作爲シ又ハ詐術ヲ擧ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十六條 納稅保證ヲシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ヲ他人ニ讓渡シタル者滞納處分ヲ受クルモ仍稅金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

第二十七條 酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シタル酒母又ハ醗ノ檢査ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十號ヲ以テ本條改正)

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五圓以上一圓九十五圓以下ノ科料ニ處ス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十一條 此ノ稅法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用井ス但シ別法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ此ノ稅法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ此ノ稅法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製造セサル者ニシテ酒母又ハ醗ヲ製造スル者ニモ適用ス

第三十四條 酒類ヲ製造シタル者ハ其ノ製造ヲ廢止スルモ造石稅完納前ニアリテハ總テ此ノ稅法ノ規程ニ從フモノトス

第三十五條 府縣及市町村ハ此ノ法律ニ依リ造石稅ヲ課スル酒類ニ對シ又ハ其ノ酒類ノ造石數若ハ造石稅ノ標準トシテ府縣稅若ハ地方稅及市町村稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルモ課稅スルコトヲ得ス(三十二年法律第二十號ヲ以テ改正)

附則

第七十九

第三十六條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續酒類ヲ製造スルトキハ一年ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限リ總テ無稅トス

第三十七條 此ノ稅法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス但シ明治十三年布告第四十號同年布告第四十二號同十六年布告第四十二號及同二十二年法律第二十四號ハ此ノ稅法施行ヨリ廢止ス

明治二十九年九月三十日附檢査濟石數ニ係ル造石稅ニ關シテハ仍明治十三年布告第四十號ニ依ル

第三十八條 沖繩縣、東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此ノ稅法施行セズ

第三十九條 沖繩縣ヲ除ク外此ノ法律ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル酒類ハ此ノ法律施行地ニ移

出スル地ト移得ル地ト移得ル地ト酒類ノ石數ハ應シ第四條ノ稅率ニ從テ豫出シタル稅額三倍ニ相當

稅ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ酒類ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス(三十二年法律第二十三號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第四十條 酒類ヲ製造スル者ハ府縣郡市若シテ稅務署管內ノ一區域トシテ酒類製造組合ヲ設ク但シ土地ノ狀況ニ依リ郡市若シテ稅務署管內ノ一區域トシテ酒類製造組合ヲ設ク(三十二年法律第四號ヲ以テ追加ス)

第三十一條 此ノ條ニ依リ酒類製造場及製造スル酒類ノ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受ク(三十二年法律第三十六號ヲ以テ但シテ刪除ス)

酒類製造場ヲ移轉セムトスル時又ハ製造スル酒類ヲ變更セムトスル時キハ稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受ク(三十二年法律第三十六號ヲ以テ追加ス)

第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ其ノ酒類製造場及製造スル酒類ノ定メ其ノ居所氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受ク(三十二年法律第三十六號ヲ以テ追加ス)

第三條 酒類製造場ニ免許ヲ受ケタル者其ノ製造場毎ニ地所建物大詳細ナル圖面並ニ酒類製造場ノ器具、器械ノ目錄ヲ調製シ事業著手前ニ稅務管理局長ニ提出ス(三十二年法律第三十六號ヲ以テ追加ス)

第四條 酒類製造主ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ(三十二年法律第三十六號ヲ以テ追加ス)

第五條 酒類製造主ハ毎酒造年度ニ於テ製造スル酒類ノ見込造石數、製造著手ノ時期、製造方法及其ノ仕込數ヲ記載シ其ノ酒造年度開始前ニ稅務管理局長ニ申告ス(三十二年法律第三十六號ヲ以テ追加ス)

前項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスル時キハ其ノ都度申告スヘシ但シ製造方法ノ變更ニ係ルモノハ承認ヲ受ケヘシ(三十二年法律第三十六號ヲ以テ追加ス)

第三十一年勅令第六十二號
中地方長官
アール中
理局長ニ改

第六條 酒類製造主ノ相續人ニ於テ其ノ製造事業ヲ繼續セムトスルトキハ其旨稅務管理局長ニ申出製造繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外酒類製造ノ事業ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造主ハ酒造稅法第二條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條 酒類ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第八條 酒類ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル酒造ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第九條 清酒ノ造石數ヲ査定スルトキハ其ノ石數ヨリ百分ノ二ヲ洋引減量トシテ控除スヘシ但シ犯則ニ係ル清酒ハ洋引減量ヲ控除スルノ限ニ在ラス

第十條 酒類製造主自己ノ製造シタル酒類若ハ製造場外ヨリ移入シタル醗又ハ酒類ヲ以テ酒類ヲ製造シタルトキハ其ノ製成酒類ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十一條 酒造原料用ノ爲メ酒類ヲ製造スルトキハ其ノ成功ノ時之ヲ検査スヘシ酒造用原料品トシテ酒類ヲ製造場内ニ移入シタルトキ亦同シ

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項酒類ニ封緘ヲ附スルコトヲ得

第十二條 酒造用原料品トシタル酒類ヲ他人ニ讓渡シ、賣入シ、消費スルトキ若ハ公賣セラルトキ又ハ製造場外ニ移出スルトキハ其ノ造石數ヲ査定スヘシ但シ他ヨリ讓受シタルモノニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 酒類製造主酒類ヲ粕漉セムトスルトキハ著手前ニ其ノ數量時期等ヲ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十四條 酒類製造主酒類ノ粕漉ヲ爲シタルトキ其ノ原酒類ノ石數ヲ確證スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ總石數ニ就キ造石數ヲ査定スヘシ

第十五條 酒滓、酒粕、蒸溜粕ヲ使用シテ製造スル酒類ハ割水其ノ他如何ナル名稱ヲ附スルモ總テ其造石數ヲ査定スヘシ

第十六條 酒類製造主其ノ製造用ニ供スル醗ヲ他人ニ讓渡シ若ハ飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供セムトスルトキハ其ノ旨直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十七條 酒母、醗又ハ原料用酒類ノ廢棄亡失若ハ腐敗シタルトキハ酒類製造主ハ其ノ旨直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十八條 酒造稅法第十二條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ(三十一一年勅令第三百六十二號ヲ以テ未納ノ二字ヲ削ル)

第十九條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄若ハ亡失ヲ認ムルトキ又ハ酒類トシテ飲用スヘカラサル處置ヲ施シタリト認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ(三十一一年勅令第三百六十號ヲ以テ次項トモ改正)

腐敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ヲ以テ燒酎又ハ酒精ノ製造用ニ供セムトスルモノハ税金ノ免除處分ヲ爲シ其ノ酒類ハ燒酎又ハ酒精ノ原料品ノ取扱ヲ爲

又ハ若シ...

第三十條 酒類製造主ハ酒類製造著手前ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ酒造税法第十三條第一項但書ニ依リ造石敷査定ノ都度保證物ヲ提供セムトスル者ハ毎酒造年度製造著手前ニ其ノ旨稅務管理局長ニ申請スヘシ(除)

保證物ヲ増補スヘキトキハ其ノ事由ノ生シタルトキ直ニ之ヲ提供スヘシ其ノ旨稅務管理局長ニ申請スヘシ

酒類製造主保證物ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ酒造税法第十四條ノ一方法又ハ數方法ヲ選ミ之ヲ申請スヘシ

第二十二條 保證物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

第一 金銭

第二 利付國債證券地方債證券

第三 政府ノ保護又ハ監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

第四 土地

第五 建物但シ火災保險ニ付シタルモノニ限ル

第三十二條 保證物ノ保證價格ヲ定ムルハ有價證券ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格土地建物ハ稅務管理局長ノ認メタル時價ヨリ十分ノ二ヲ控除シタルモノニ依ル但シ建物ニ付テハ時價ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シタルモノノ被保險額ヨリ多キトキハ被保險額ニ依ル

第二十三條 酒類製造主保證物ヲ提供スルトキハ金銭有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ稅務管理局長ニ提出シ土地建物ハ書入ノ登記ヲ爲スヘシ第三者ニ於テ酒類製造主ノ爲メ保證物ヲ提供スルトキ亦同シ

第二十四條 保證物トシテ提供シタル證券債券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキ若ハ建物ノ壞倒亡失シタルトキ又ハ保險契約ノ消滅シタルトキハ酒類製造主ハ稅務管理局長ノ指定期限内ニ更ニ保證物ヲ提供スヘシ但シ建物ニ對スル保險金ヲ受領シタルトキハ其ノ保險金ヲ保證物トシテ供託スヘシ

第二十五條 酒造税法第十三條ノ保證物ヲ提供セサルトキハ收稅官吏ハ製造酒類ニ封滅ヲ附シ之ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 納稅保證人ハ稅務管理局長ニ於テ納稅保證人ニ堪フル資力アリト認ムル者ニ限ル

第二十七條 稅務管理局長ハ納稅保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第二十八條 收稅官吏ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ニ封滅ヲ附スルコトヲ得

第二十九條 稅務管理局長ハ納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類納稅保證ニ適セサルニ至リタリト認ムルトキハ之ヲ變換セシムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主ハ稅務管理局長ニ申出保證物、納稅保證人又ハ保存ノ義務ヲ有スル酒類ノ變換ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 酒類製造主税金ヲ納メサルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ニ通知シ其ノ税金ヲ納メシムヘシ(三十二年勅令第三百六十一號ヲ以テ各項トモ改正) 納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ニ於テ税金ヲ完納セサルトキハ酒類製造主ニ對シテ前項滯納ノ處分ノ後仍税金ニ不足アルトキハ納税保證人又ハ納税ヲ擔保シタル酒造組合ノ各組合員ニ對シテ滯納處分ヲ行フヘシ

第三十二條 同一製造場内ニ於テ清酒並ニ濁酒ヲ製造セムル者ハ其ノ釀造設備ニ供スル場所以ノ酒類別ニ特定シ稅務管理局長ノ認可ヲ受ケ合算納税人トシテ其ノ釀造設備ニ供スル場所以ノ酒類別ニ特定シ稅務管理局長ノ認可ヲ受ケ合算納税人トシテ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

第三十三條 稅務管理局長ノ檢定ヲ爲シタルトキハ其ノ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スルコトヲ得

第三十四條 收稅官吏ハ隨時酒類製造場ニ就キ酒類、酒造用原料品、器具、器械、容器、帳簿又ハ書類ヲ檢査スヘシ

第三十五條 收稅官吏ハ搾器械、蒸溜器械ノ使用停止申出ニ封緘ヲ附スルコトヲ得但シ修理其ノ他必要ノ事故アルトキハ之ヲ解除スルコトヲ得

第三十六條 自己ノ所有ト否トハ問ハス容器、器具、器械及酒造用原料品ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケルニアラサレハ酒類製造中ハ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第三十七條 酒類用原料品中酒母又ハ醗ノ檢査ハ熟成ノ時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醗ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ

酒母、醗以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ檢査スヘシ其ノ檢査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十八條 酒類製造主ハ製造方法ノ異ナル毎ニ並ニ一仕込毎ニ酒母及醗ニ記號ヲ附シテ之ヲ區分シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケルニアラサレハ彼是混淆スルコトヲ得ス

第三十九條 酒類製造主左ニ掲クル事項ヲ行ハムトスルキトハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

- 一 熟成シタル酒母ヲ醗ニ仕込ムコト
 - 二 熟成シタル醗ヲ酒母ニ代用シ添掛ヲ爲スコト
 - 三 酒母、醗又ハ原料用酒類ノ容器ヲ變換スルコト
 - 四 仕込濟ノ醗ニ水ヲ混和スルコト
 - 五 原料用酒類ノ用途ヲ變更スルコト
 - 六 藏出前ニ於ケル自己製造ノ酒類ニ買入酒類ヲ混和シ又ハ割水ヲ爲スコト
- 第四十條 酒類製造場外ヨリ酒類製造場内ニ酒母、醗又ハ酒類ヲ移入シタルトキハ其ノ旨直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ
- 第四十一條 二仕込以上ノ醗ヲ合併シテ清酒ヲ搾揚セムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケルニ但シ七仕込以上ノ醗ヲ合併スルコトヲ得ス

第四十二條 酒類製造主ハ其ノ摺揚ケタル酒類ノ造石數査定ノ時之ヲ検査スヘシ
酒類製造主ハ前項検査後ニアラザレハ酒類ヲ製造場外ニ移出シ又ハ使用シ若ハ他ノ酒類ヲ混
合スルコトヲ得ス

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒類ノ受拂、酒母及醗、仕込、焼酎又ハ酒精ヲ造リ
込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令
又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ
在ラズ

附則

第四十四條 酒造税法施行前ニ於テ明治十三年布告第四十號ニ依リ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル
者ニシテ尙ホ引續キ酒造税法第二條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ明治二十九年九月三十日迄ニ

第三條ノ圖面、目錄ヲ添ヘ其ノ旨稅務管理局長ニ申請スルハ酒造官吏ノ承認ヲ受ケルベシ
第四十五條 酒造税法第三十六條ニ該當スル者ハ明治二十三年以前キ引續キ酒類ヲ製造スルコ
トノ事實ヲ具シ稅務管理局長ニ免許ヲ申請スヘシ

○酒造組合格規則 明治三十三年七月
勅令第三百四十號
朕酒造組合格規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布スルニ其ノ旨查驗ニ付テハ酒造組合格主
朕酒造組合格規則 明治三十三年七月
勅令第三百四十號

第一條 酒類製造者酒造税法第四十條ニ依リ設ケル酒造組合ニ關スル規定ハ本令ヲ以テ之ヲ

定ム

第二條 酒造組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的ト爲
ス

第三條 酒類製造者酒造組合ヲ設置セムトスルニキリ組合契約書ヲ作成シ地方長官ノ認可ヲ受
ケルベシ

第四條 組合契約書ハ左ノ事項ヲ記載スルベシ
一 組合員ノ名稱
二 組合設置ノ區域
三 組合事務所ノ所在地
四 組合ノ事業
五 組合役員ノ選任方法及其ノ權限
六 組合總會召集ノ方法
七 組合ニ於ケル會議ノ方法
八 組合經費ノ負擔及其ノ取立方法
九 組合契約違反者處分ノ方法
十 組合契約書ノ變更ニ關スル手續
十一 組合ニ於テ酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法

一 組合員ノ名稱
二 組合設置ノ區域
三 組合事務所ノ所在地
四 組合ノ事業
五 組合役員ノ選任方法及其ノ權限
六 組合總會召集ノ方法
七 組合ニ於ケル會議ノ方法
八 組合經費ノ負擔及其ノ取立方法
九 組合契約違反者處分ノ方法
十 組合契約書ノ變更ニ關スル手續
十一 組合ニ於テ酒類製造者ノ造石稅納付ヲ擔保スル場合ニ於ケル決議方法

十三 酒造税法施行規則第三十一條第一項ノ通知ヲ受ケタルキハ其ノ處分方法

組合契約書ニハ前各號ニ掲ケルモノノ外組合ニ於テ必要トスル事項ヲ記載スルコトヲ得

第五條 酒造組合ハ諸般ノ事務ヲ處理スル爲左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組合長

二 組合評議員

組合員多數ナルトキハ便宜組副長又ハ組合支部長ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス

第六條 組合長ハ組合員ヲ代表ス

第七條 組合役員ノ選任及解任アリタルトキハ酒造組合ヨリ其ノ氏名ヲ地方長官及稅務管理局

長ニ報告スヘシ

第八條 酒造組合ハ毎年少クトモ一回其ノ經費ノ決算ヲ爲シ各組合員ニ報告スヘシ

第九條 酒造組合ハ營利ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ酒造組合ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト

認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

○ 混成酒税法 明治二十九年三月

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル混成酒税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

混成酒税法

第一條 此ノ法律ニ於テ混成酒ト稱スルハ左ニ掲ケルモノヲ謂フ (三十二年法律第二十五號ヲ以テ改正)

一 酒精ト酒精ニ非ラサル物品トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ

二 酒精ト酒類トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ

三 一種ノ酒類ト酒類トヲ混和シテ別種ノ酒類トナシタルモノ

四 三種以上ノ酒類ト酒類トヲ混和シテ酒類トナシタルモノ

類トナシタルモノ

第二條 混成酒ヲ製造スル者ハ其ノ造石數ニ應ジテ石金十三圓ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス但シ攝

政廳溫器十五度ノ酒精ニ於テ原容量百分中酒精ノ容量二十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ増ス毎ニ

本條ノ金額ニ一圓ヲ加フ (上)

第三條 酒造税法ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ得タル者政府ハ承認ヲ得テ製造場内ニ於テ其ノ製造ニ係

ル酒類ノ原容量百分ノ二以内ノ燒酎ヲ混和スルトキハ其ノ増加石數ニ應ジテ課稅ス (上) (三十二年法律第二

第四條 造石稅ノ納期ヲ左ノ二期トシ但シ廢業シタル者ハ即納トス

第一期 其ノ年七月二日ヨリ同三十一日限

第二期 一月二日ヨリ六月三十日迄造定造石數ニ係ル稅額ノ半額トシ其ノ餘額ハ前項ノ期滿後

第二期 翌年一月二日ヨリ同三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄査定済石數ニ係ル税額

第五條 混成酒ヲ製造スル者ハ收税官吏ノ認許ヲ受クルニ非サレハ其ノ製造シタル酒類ヲ販賣シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第六條 第五條ヲ犯シタル者ハ五百圓以上、百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 酒造税法第二條、第七條、第八條、第十一條、第十二條、第十八條、第十九條、第二十二條、第二十四條、第二十五條、第二十八條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十六條ハ混成酒ノ製造ニ適用ス(三十二年法律第二十號ヲ以テ條中削除)

附則

第八條 此ノ税法ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

第九條 沖繩縣ニハ當分此ノ税法ヲ施行セス(三十二年法律第二十號ヲ以テ條中削除)

○混成酒税法施行規則(明治二十九年八月勅令第二百八十八號)

朕混成酒税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

混成酒税法施行規則

第一條 混成酒ヲ製造スル者ハ毎年十二月三十一日迄ニ其ノ翌年中ニ製造スヘキ混成酒ノ酒類、石數及製造方法ヲ「地方長官」ニ申告スヘシ

前項申告シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ

第二條 「地方長官」ハ混成酒製造高ノ多少ニ從ヒ毎月一回以上時日ヲ定メ豫メ其ノ期間ノ混成酒製造高ヲ申告セシム

第三條 混成酒ノ製造用ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ他ヨリ其ノ製造場ニ移入スルモノハ移入ノ時、其製酒場ニ在ルモノハ原料品ト定メタルトキ「地方長官」ニ申告スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ收税官吏ハ其ノ酒精又ハ飲料酒類ヲ検査シ必要ト認ムヘキ場合ニハ封緘ヲ附スルコトヲ得

第四條 混成酒ノ原料ニ供スル酒精又ハ飲料酒類ハ前條ノ検査ヲ受ケ且收税官吏ノ承認ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 混成酒ヲ製造スル者酒造税法ノ酒類其ノ他ノ飲料酒類ヲ製造場ニ移入シタルトキハ混成酒製造用ニアラサルモ其ノ旨直ニ「地方長官」ニ申告スヘシ

第六條 酒造税法施行規則第一條第二條第三條第四條第六條第七條第八條第九條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條ノ規程ハ混成酒ヲ製造スル者ニモ適用ス

附則

第七條 明治二十九年十月一日以降同年十二月三十一日迄ノ間ニ混成酒ヲ製造セントスル者ハ

第一條ノ規程ニ準シ同年九月三十日迄ニ「地方長官」ニ申告スヘシ

○輸出酒類戻税規則(明治三十一年七月)
 朕輸出酒類戻税規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシムルコトヲ命ジテ其施行期ハ
 輸出酒類戻税規則

第一條 内國ニ於テ造石税ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港税關ノ検査ヲ受ケ置輸
 入港税關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑
 ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サズル者ハ其効力ヲ失フベシ
 第二條 造石税ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港税關ノ検査ヲ受ケ陸揚ノ際
 其戻税ハ之ヲ還納スベシ
 第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第四條 本則ハ明治三十一年九月二日ヨリ施行ス
 ○ 沖繩縣酒類出港税規則(明治三十一年三月)
 朕沖繩縣酒類出港税規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシムルコトヲ命ジテ其施行期ハ
 沖繩縣酒類出港税規則
 第一條 沖繩縣内ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルトキハ其ノ石數ニ應シテハ

二十一年大藏
 省令第八號ヲ
 以テ本則ノ施
 行細則ヲ定ム

二十一年大藏
 省令第七號ヲ
 以テ本則ノ施
 行細則ヲ定ム

割合ヲ以テ出港税ヲ課ス(二十九年法律第三十一號及三十
 一年法律第二十八號ヲ以テ改正)
 第一種 清酒、酒類 一石 金十二圓
 白濁、味林
 第二種 燒酎、酒精 一石 金十三圓
 第三種 混成酒 一石 金十三圓
 攝氏驗温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種第三種ニ在テハ二十第二種ニ在テ
 ハ五十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ増ス毎ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ
 第二條 出港税ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船政所ヲ設置ス
 第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港税ヲ船政所ニ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積ス
 第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船政所ニ届出ヘシ
 那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ
 第五條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ
 但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帶スベシ
 第六條 出港税ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セシメテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港税金三倍ノ
 罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣却キタル者ハ其代價ヲ追徵ス
 第七條 第四條ノ届出ヲ爲サズル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條 主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九條 此規則ニ違犯シタル者ハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第十條 前條ノ場合ニ於テ家族雇人及囑托ヲ受タル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其

荷主又ハ船長ヲ處罰スル
第十一條 此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

○醫藥用工業用酒精稅金下戻請求方
朕帝國議會ハ協賛ヲ經テ醫藥用工業用酒精ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

酒造稅法ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒精又ハ從價ニ倍半若クハ之ヲ從量ニ換算シタル輸入稅ヲ課セ
ラレタル酒精又ハ醫藥用ニ供スル者又ハ酒精製造ヲ除ク外工業用ニ供スル者ニシテ政府ノ承認ヲ得テ
餘回一石以上ノ酒精又使用スル者ハ其ノ造石稅ニ相當スル稅金額下戻ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

此ハ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ且出納ノ期日又ハ其ノ詳細ハ勅令ニ出ス

○酒精造石稅ニ相當スル金額ノ下戻請求手續
勅令第三十二號六月
朕酒造石稅ニ相當スル金額ノ下戻請求手續ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年法律第二十七號ニ依リ酒精造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求セムトスル者ハ收
稅官吏若ハ稅關官吏ノ證明書ヲ得テ酒造稅法ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒精又ハ從價ニ倍半
若クハ之ヲ從量ニ換算シタル輸入稅ヲ課セラレタル酒精ナルコトヲ證明シ使用ノ都度收稅官吏ハ
承認ヲ受クベシ

○醬油稅則
勅令第四十七號
朕一 醬油稅則 明治四年七月醬油製造權讓渡方規則及收稅方法ヲ定ムルハ八月二月廿六號布告ヲ以テ稅則ヲ廢ス●十八年五
月廿九號布告ヲ以テ再上醬油稅則ヲ制定ス●二十一年六月勅令第四十七號ヲ以テ前稅則ヲ改正ス且現行法

第醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕一 條 醬油製造權ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クベシ其製造ヲ廢止セ
ルハ其製造場ノ免許ヲ取消スルベシ(三十一年法律第二十五號) 且之ニ關シテ各項トモ改正

自家用料ノミナラズ醬油ヲ製造スル者ハ其ノ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マル
モノハ前項ノ免許ヲ受クベシ要セス但左ニ記載スル者ハ此限ニ在ラス

一 醬油請賣人
二 料理店、飲食店、旅人宿營業者
三 前二號ノ者ト同居スル者

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムベシ但自家用料ノミナラズ醬油ヲ製造スルモノハ半額トス(三十
一年法律第二十五號) 且之ニ關シテ各項トモ改正

造石稅 醬油ハ諸味一石ニ付 金二圓
溜製成一石ニ付 金二圓

第三條 第一條第二項ニ該當スル者ハ前條ノ造石稅ヲ課セス(全)

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムベシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムベシ(全)

第一期 七月三十一日限
一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル稅額

第九類 醬油稅則

七百九十七

第二期 十一月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第三期 翌年三月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ官廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定済ノ醬油ト査定未済ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ
第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ク其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出検査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得
製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

第七條 醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニハ造石稅ヲ課セス(三十二年法律第二十五號ヲ以テ改正)

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレバ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書

ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ検査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證據ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依托ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス(三十二年法律第二十五號ヲ以テ改正)

第十五條 第一條第二項ニ該當スル者ハ政府ニ申告スヘシ(三十二年法律第二十五號ヲ以テ改正)

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトヲ得ヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ怠料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 第一條第二項ニ該當セサル者ニシテ免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス(三十二年法律第二十五號ニテテ次項トモ改正)

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隠蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十五號ニテテ次項トモ改正)

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ查定ヲ受ケサル者第八條第九條第十六條ヲ犯シタル者第十五條ノ申告ヲ爲ササル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十條第六條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス(三十二年法律第二十五號ニテテ次項トモ改正)

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十二條 第六條ノ検査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十號ニテテ次項トモ改正)

第二十三條 第一條第二項ニ該當スル者一石ヲ超エテ諸味ヲ仕込ミ又ハ溜ヲ製成シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス(三十二年法律第二十五號ニテテ次項トモ改正)

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未満ノ幼年者及癩癩白痴又ハ瘡癩ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ(三十二年法律第二十五號ヲ以テ北海道ノ三字ヲ削ル)

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○醬油稅則施行規則 明治三十二年三月勅令第四十六號

朕醬油稅則施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則施行規則

第一條 醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ヲ除ク外醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ製造場及居所、氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ自家用ノミノ醬油ヲ製造セムトスル者ハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

醬油製造場ヲ移轉セムトスルトキハ稅務管理局長ニ申請シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 醬油稅則第一條第二項ニ該當スル者ハ其ノ居所、氏名ヲ記シ稅務管理局長ニ申告スヘシ其ノ醬油製造ヲ廢止シ又ハ居所、氏名ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

第三條 醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 醬油製造人ハ其ノ製造場毎ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面並醬油製造用容器ノ目錄ヲ製シ事業著手前ニ稅務管理局長ニ提出スヘシ

前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條 醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニ非サレハ醬油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

稅務管理局長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙印スヘシ

第六條 醬油製造人ハ毎年見込込石數、見込查定石數及製造方法ヲ記シ前年十二月中ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其ノ旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要セス

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ
前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

第七條 醬油製造人ノ相續人其ノ製造ヲ繼續セムトスルトキハ稅務管理局長ニ申出テ繼續ノ免許ヲ受クヘシ

相續ノ場合ヲ除ク外醬油製造ヲ引繼カムトスル者ハ總テ第一條ニ依リ醬油製造ノ免許ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醬油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第八條 醬油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第九條 醬油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ其ノ現在スル醬油ノ總量ニ就キ之ヲ查定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醬油又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ查定スヘシ

第十條 醬油ヲ醬油製造ノ原料ニ供セムトスルトキハ醬油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十一條 前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醬油ヲ賣渡、貸渡、讓渡又ハ自用シ若ハ前條第一項ノ申告ヲ爲シテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ查定スヘシ

第十二條 醬油製造人ハ左ノ場合ニ於テ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

一 自己ノ所有ト否トヲ問ハズ容器ヲ製造場外ニ移サムトスルトキ
二 原料用醬油ヲ使用セムトスルトキ

三 諸味又ハ原料用醬油ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

第十三條 造石數査定未済ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第十四條 醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第十五條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務管理局長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ税金ノ免除處分ヲ爲スヘシ

第十六條 外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證書明竝輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

第十七條 醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管内ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル但シ輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均歩合ニ依ル

第十八條 溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日限リ前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務管理局長ニ申告スヘシ

醬油製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條 醬油製造人ハ醬油製造用原料品ノ受拂、醬油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十一條 本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

○自家用醬油稅法明治三十三年三月法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル自家用醬油稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

自家用醬油稅法

第一條 自家用醬油細目ヲ併一箇年五石以下ヲ製造セムトスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年内ニ於テハ製造高ノ變更ヲ許可セズ

第二條 自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル

第三條 自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ

第一種 二石未満 金一圓

第二種 三石未満 金二圓

第三種 四石未満 金三圓

第四種 五石以下 金四圓

第四條 製造税之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年三月ヲ以テ納期トス但シ納期後免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條 自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルモノトス

第六條 當該官吏ハ自家用醬油製造者ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第七條 自家用醬油製造者其ノ製造シタル醬油ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用醬油ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 自家用醬油製造者免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ醬油税則第二條ノ造石税ヲ課ス
前項ノ造石税ハ即時之ヲ徴收ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十條 自家用醬油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其ノ製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十一條 左ニ記載シタル者ニハ本法ヲ適用セス

- 一 自家用醬油製造者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止ルモノ
- 二 醬油製造營業人、醬油請賣人
- 三 料理店、飲食店、旅人宿營業者
- 四 前三號ノ者ト同居スル者

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項第二號以下ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依ル免許ヲ以テ醬油税則ニ依ル免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同税則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造税ハ之ヲ免除セス

第十二條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬油税則ヲ適用セス

附則

第十三條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ明治三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シタル醬油ニシテ醬油税則ニ依リ査定ヲ受ケタルモノニ關シテハ其ノ造石税ヲ免除ス
第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島、伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス

○自家用醬油税法施行規則 明治三十三年三月
勅令第六十七號

朕自家用醬油税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

自家用醬油税法施行規則

第一條 自家用醬油税法第一條ニ依リ自家用トシテ醬油ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所、氏名、自家用醬油税法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第二條 自家用醬油税法第三條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務管理局長ニ差出スヘシ

第三條 自家用醬油製造者其ノ居所、氏名又ハ製造方法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第四條 自家用醬油稅法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法第十一條第二號以下ニ該當スルニ至リタ

ルトキハ其ノ旨直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第五條 自家用醬油ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨稅務管理局長ニ申請スヘシ

自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ財產管理人ヨリ其ノ旨

稅務管理局長ニ申告スヘシ

○狩獵免許稅徵收方明治三十年三月 法律第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵免許稅徵收ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

狩獵法ニ依リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當スル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムルモノト

ス
此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○葉煙草專賣法明治二十九年三月 法律第三十五號

沿革略記 明治八年二月二十八號ヲ以テ明治九年一月一日ヨリ煙草ニ課稅スヘキ旨ヲ公布ス○同年十月第百五十號布告ヲ以テ稅則ヲ制定ス○十五年十二月第六十三號布告ヲ以テ前稅則ヲ改正ス○二十一年四月勅令第二十號ヲ以テ前稅則ヲ改正ス○二十九年三月法律第三十五號ヲ以テ葉煙草專賣法ヲ制定シ前稅則ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル葉煙草專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

葉煙草專賣法

第一條 政府ハ葉煙草ノ專賣權ヲ有ス

第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號
第三十二年勅令第三十號

第二條 葉煙草ハ政府之ヲ收納シ又ハ輸入シテ賣渡スヘシ(三十二年法律第三十二號)

第三條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後總テ其ノ葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス

第四條 葉煙草ヲ耕作シタル者葉煙草ヲ納付スルトキハ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交付スヘシ葉煙草ノ賠償金ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ其ノ品位等級ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム若此ノ鑑定ニ不服アルトキハ更ニ鑑定ヲ求ムルコトヲ得

第五條 政府ハ豫メ葉煙草耕作地ノ區域ヲ定ムルコトヲ得但シ官費又ハ公費ヲ以テスル葉煙草試作地ハ此ノ限ニ在ラス(三十二年法律第二十一號ヲ以テ本條改正)

第六條 葉煙草ヲ耕作セムトスル者ハ政府ノ指定シタル期限内ニ毎年耕作スヘキ葉煙草ノ種類土地及段別ヲ政府ニ届出ヘシ其ノ届出事項ヲ變更シタルトキ亦同シ(上全)

政府ハ葉煙草ノ需要供給ノ如何ニ依リ前項ノ種類及段別ヲ制限スルコトヲ得
葉煙草耕作者ニシテ本法ニ違反シ葉煙草ヲ耕作シ又ハ讓渡シ若ハ消費シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ政府ハ三箇年以内葉煙草ノ耕作ヲ禁スルコトヲ得

第七條 葉煙草耕作者ノ變更シタルトキハ其ノ耕作ヲ繼承シタル者ヨリ其ノ旨政府ニ届出ヘシ

第八條 煙草製造ヲ業トスル者及葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ヲ耕作スルコトヲ得ス

第九條 (三十二年法律第二十號ヲ以テ本條削除)

第十條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後翌年三月三十一日迄ニ政府ノ指定シタル

場所ニ之ヲ納付スヘシ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セムトスルトキハ政府ノ認許ヲ受クヘシ
 第十一條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏スルコトヲ得ス又葉煙草耕作者以外ノ者ハ總テ政府ニ届出ヲ爲スニ非サレハ他人ノ葉煙草ヲ貯藏スルコトヲ得ス(三十二年法律第二十八號ヲ以テ改正)
 第十二條 輸出ニ供スル葉煙草ハ政府ノ認許ヲ受クルトキハ之ヲ政府ニ納付セスシテ他ニ賣渡スコトヲ得

第十三條 前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ其ノ保管證ヲ以テ賣買スルコトヲ得

第十五條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年内ニ輸出セサルトキハ政府ハ之ヲ收納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ(三十二年法律第二十八號ヲ以テ改正)

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草ハ輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管者ハ運搬ノ爲ニ生シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ノ所屬ヲ問ハス葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ検査スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在ト認ムル場所ニ立入又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運送中ニアルモノハ其ノ所在ニ就キ之ヲ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設ケテ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第十九條ノ二 葉煙草ハ總テ定價ヲ以テ賣渡スモノトス但シ必要ト認ムル場合ニ於テハ競争ニ付スルコトヲ得(三十二年法律第二十八號ヲ以テ改正)

第十九條ノ三 葉煙草ハ政府ノ外之ヲ外國ヨリ輸入スルコトヲ得ス

第十九條ノ四 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ニ非サレハ葉煙草ノ讓渡ヲ受クルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ標本トシテ葉煙草ヲ買受クルハ此ノ限ニ在ラス

政府ヨリ賣渡シタル葉煙草ハ之ヲ賣物トシテ占有シ之ニ對スル質權ヲ行使スルヲ妨ケス

第十九條ノ五 煙草ノ製造又ハ葉煙草ノ賣買ヲ業トセムストル者ハ毎年政府ニ申出テ免許ヲ受ケ左ノ免許料ヲ納ムヘシ其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ際届出ヘシ

一 煙草ノ製造ヲ業トスル者 營業場一箇所毎ニ金五十圓

一 葉煙草賣買ヲ業トスル者 金五十圓

第十九條ノ六 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ニ非サル品類ヲ使用シテ煙草ヲ製造シ又ハ煙草製造ニ供スヘキ目的ヲ以テ葉煙草ニ非サル品類ヲ賣買スルコトヲ得ス

第十九條ノ七 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ當該官吏ハ隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十九條ノ八 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者政府ヨリ賣渡ヲ爲ササル葉煙草ヲ所持スルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス政府ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其ノ賠償金ヲ交付スヘシ

第二十條 葉煙草ノ耕作地域外又ハ届出ヲ爲ササル土地ニ葉煙草ヲ耕作シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ葉煙草ヲ沒收ス其ノ收穫前ニ係ルモノハ之ヲ廢棄セシム(三十二年法律第二十八號ヲ以テ改正)
 煙草製造ヲ業トスル者若ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者又ハ葉煙草ノ耕作ヲ禁セラタル者葉煙草ヲ耕

作シタルトキ亦前項ニ同シ(上全)

第二十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ又ハ葉煙草ノ讓渡ヲ受クルコトヲ得サル者葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ又ハ葉煙草製造ヲ業トスル者若ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者情ヲ知り政府ヨリ賣渡ササル葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ若ハ葉煙草ノ讓渡ヲ受クルコトヲ得サル者ヨリ葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ若ハ氏名居所不明ノ者ヨリ葉煙草ヲ讓受ケタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス(上全)

第二十一條ノ二 免許ヲ受ケスシテ葉煙草製造ヲ業トシタル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トシタル者ハ免許料ノ二倍以上五倍以下ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ製造煙草ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス(三十二年法律第二十八號ヲ以テ追加)

第二十一條ノ三 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者葉煙草ニ非サル品類ヲ使用シテ葉煙草ヲ製造シ又ハ葉煙草製造ニ供スヘキ目的ヲ以テ葉煙草ニ非サル品類ヲ賣買シタルトキハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造品若ハ其ノ使用ニ供スヘキ葉煙草以外ノ品類ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス(上全)

第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル葉煙草ハ何人ノ所有ヲ問ハス政府之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其ノ賠償金ヲ交付スヘシ(三十二年法律第二十八號ヲ以テ追加)

十八號ヲ以テ改正)

葉煙草耕作者以外ノ者届出ヲ爲サス他人ノ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ貯藏葉煙草ニシテ其ノ所有者不明ナルトキハ仍前項但書ヲ適用ス(上全)

第二十三條 葉煙草耕作者變更ノトキ其ノ繼承ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者營業ニ係ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十二年法律第二十八號ヲ以テ改正)

第二十五條 政府ニ對シ又ハ當該官吏ノ諷問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉煙草及帳簿ノ検査ニ對シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル(三十二年法律第二十

第二十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不問罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 葉煙草ヲ耕作スル者又ハ葉煙草製造ヲ業トスル者又ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ其ノ代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ意ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(三十二年法律第二十

附則

第二十九條 本法ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第三十條 特別ノ狀況アル地方ニ限リ勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得(三十二年法律ヲ以テ改正)

政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ葉煙草又ハ製造煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草若ハ製造煙草ノ現存スルトキハ之ヲ沒收シ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代價ヲ追徴ス(上)

第三十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但シ煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

第三十二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ但シ納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 本法施行後葉煙草ノ讓渡ヲ受クルコトヲ得サル者本法施行ノ際所有スル葉煙草ハ明治三十一年四月三十日迄ニ煙草製造ヲ業トスル者若ハ葉煙草賣買ヲ業トスル者ニ讓渡スヘシ若此ノ期限ヲ過キ仍葉煙草ヲ所有セムトスル者ハ其ノ種類、量目ヲ政府ニ申出テ認許ヲ受クヘシ犯シタル者ハ其ノ葉煙草ヲ沒收ス(三十二年法律第二十號ヲ以テ追加)

第三十四條 外國ヨリ輸入スル葉煙草ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ム(上)

○葉煙草競爭賣渡方明治三十一年三月勅令第四十五號

朕葉煙草競爭賣渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 葉煙草賣所ニ於テ競爭ニ付シ葉煙草ヲ賣渡ストキハ入札又ハ競賣ノ方法ニ依ル

葉煙草賣所ハ競爭ニ加ハラントスル者又ハ契約ヲ結ハントスル者ヲシテ現金ヲ以テ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

第二條 競爭ヲ行ハントスルトキハ豫メ揭示又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第三條 競爭ハ競爭者ノ面前ニ於テ施行スヘシ競爭執行ノ際出席セサル者ノ競爭申込ハ無効トス

第四條 競爭ニ付スルモ各人ノ競爭價格定價以下ナルトキハ其ノ競爭ハ無効トス

第五條 同一價格ヲ以テ競爭シ落札又ハ競落トナルヘキ者數人アリタルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ其ノ落札者又ハ競落者ヲ定ムヘシ

第六條 落札者又ハ競落者ハ直ニ買請書ヲ提出スヘシ

○葉煙草保管證亡失及賣渡代金延納ニ關スル件明治三十年十月勅令第三百七十五號

朕葉煙草保管證亡失及賣渡代金延納ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 保管葉煙草ノ保管證ヲ亡失シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ葉煙草ノ價格ニ相當スル擔保ヲ提供シテ保管葉煙草ノ交付ヲ請フコトヲ得

第二條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ葉煙草專賣所ノ指定スル擔保ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請フコトヲ得

○葉煙草專賣法違犯事件ニ關スル規定明治三十三年三月法律第六十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十二年法律第九十八號改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
間接國稅犯則者處分法ハ葉煙草專賣法違犯事件ニ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ハ葉煙草專賣事務ニ從事スル官吏、收稅官吏、稅關官吏又ハ警察官吏之ヲ行ヒ稅務管理局長ニ屬スル職務ハ違犯事件發見地ヲ管轄スル專賣支局長之ヲ行フ

專賣局長ノ直轄スル區域内ニ在リテハ前項專賣支局長ニ屬スル職務ハ專賣局長之ヲ行フ

○葉煙草專賣法違犯事件ニ關スル規定ノ施行規則明治三十三年三月勅令第五十三號

朕明治三十三年法律第六十八號施行規則トシテ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十三年法律第六十八號ノ施行ニ付テハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス

○製造煙草輸出交付金明治三十二年三月法律第七十四號

川十二年初令
第三百四十一
條ヲ以テ第一
條ノ交付金ハ
百分ノ二十ト

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル製造煙草輸出交付金ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ葉煙草專賣法施行地ニ於テ製造シタル煙草ヲ外國ニ輸出シタル者ニ對シ其ノ價格ノ百分ノ二十ヲ超過セサル範圍内ニ於テ勅令ノ定ムル所ノ金額ヲ交付スルコトヲ得

第二條 輸出煙草ノ價格ハ輸出ノ際ニ於ケル申告價格ニ依ル申告價格ヲ不相當ト認メトキハ政府之ヲ定ム

附則

第三條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○賣藥印紙稅規則明治十五年十月第五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價壹錢迄

印稅壹厘

一同貳錢迄

同貳厘

三十一年初令
第四百十號收
入印紙ニ關ス
ル件参照

- 一 同 三錢迄
- 一 同 五錢迄
- 一 同 拾錢迄

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡	黒	色
貳厘	青	色	
參厘	黃	色	
五厘	茶	褐	色
壹錢	赭	色	
貳錢	綠	色	
參錢	濃	青	色
四錢	橙	黃	色
五錢	紫	色	
拾錢	深	紅	色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ニ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 船賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼川印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

○印紙貼用雜形略之

○收入印紙 明治三十一年七月

朕收入印紙ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙、貼用スヘキ場合ニハ自今一樣ノ收入印紙ヲ用ウヘシ其ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム但シ從來ノ證券印紙、煙草印紙、訴訟用印紙、賣藥印紙、登記印紙ハ當分ノ内收入印紙ニ代ヘ使用スルコトヲ得

○收入印紙賣下方明治三十二年三月勅令第五十號
 朕收入印紙賣下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 郵便切手ノ賣下ヲ爲ス郵便及電信局所立郵便切手賣下所ニ於テ收入印紙ノ賣下ヲ爲スコトヲ得
 其ノ賣下ニ關スル規程ハ逓信大臣之ヲ定ム

○印紙稅法明治三十二年三月法律第五十四號

沿革略記 明治六年二月第五十六號布告ヲ以テ證據交印紙貼用規則ヲ制定ス●七年七月第八十一號布告ヲ以テ前令ヲ廢止更ニ證據交印紙規則ヲ制定ス●八年七月第二十號布告ヲ以テ人民ヨリ各處ニ差出ス受領并約定筋ニ涉ル書類ニ證據交印紙ノ用方モ本則ニ據ラレム●十七年五月第十一號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス●三十二年三月法律第五十四號ヲ以テ印紙稅法ヲ定メ證據交印紙規則ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙稅法

第一條 財產權ノ創設、移轉、變更若ハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未

滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條 爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

- 一 金高二千圓未滿 印紙稅二錢
- 一 金高二千圓以上 印紙稅十錢

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

- 一 委任狀 印紙稅一錢
- 一 銀行預金證書 印紙稅二錢
- 一 船荷證券 印紙稅二錢
- 一 運送貨物引換證 印紙稅二錢
- 一 倉荷預證券 印紙稅二錢
- 一 倉荷質入證券 印紙稅二錢
- 一 保險證券 印紙稅二錢
- 一 株券 印紙稅二錢

一 債券	印紙税二錢
一 株式申込證	印紙税二錢
一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書	印紙税二錢
一 使用貸借、貸付借、展借、寄託、定期金	印紙税二錢
一 三關スル契約證書	印紙税二錢
一 定款及組合契約書	印紙税二錢
一 權利ノ變更ニ關スル證書	印紙税二錢
一 追認、承認ニ關スル證書	印紙税二錢
一 物品切手	印紙税二錢
一 賣買仕切書	印紙税二錢
一 送狀	印紙税二錢
一 受取書	印紙税二錢
一 金高記載ナキ證書	印紙税二錢
一 擔保品差入證書、擔保品預證書	其印紙税二錢
一 通帳	印紙税二十錢
一 判取帳	印紙税二十錢

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿	印紙税二錢
一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿	印紙税二錢
一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書	印紙税二錢
一 慈善又ハ公共事業ニ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若ハ公署ニ提出スル證書	印紙税二錢
一 俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書	印紙税二錢
一 小切手	印紙税二錢
一 金高五圓未満ノ爲替手形、約束手形	印紙税二錢
一 營業ニ關セサル受取書	印紙税二錢
一 金高五圓未満若ハ金高記載ナキ送狀、受取書又ハ賣買仕切書	印紙税二錢
一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約	印紙税二錢
一 證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書	印紙税二錢
一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載	印紙税二錢
一 手形ノ引受、保證	印紙税二錢
一 手形及證券ノ拒絕證書	印紙税二錢
一 手形及證券ノ複本、謄本	印紙税二錢

第六條 印紙税ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、倉荷質入證券、保險證券、株券、債券ハ印紙税額ニ相當スル現金ヲ政府

ニ納付シテ税印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條 一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條 證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿、賣買任切書、送狀ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十一條 證書、帳簿ニ相當ノ印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ税印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條 第十條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用弗ス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條 明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ税金高以上

ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ

○印紙類賣下賣捌規則

二十三年大藏省令第三十四號ヲ以テ本則ヲ施行ス

沿革略記 明治十五年十二月第二十七號布告ヲ以テ印紙賣捌手續ヲ定ム●十七年四月第九號布告ヲ以テ前令ヲ廢止シ印紙類賣下賣捌規則ヲ定ム●十九年六月大藏省令第二十一號ヲ以テ前令ヲ廢止シ印紙類賣下賣捌規則ヲ定ム●二十三年十一月勅令第二百七十一號ヲ以テ前則ヲ廢シ更ニ印紙類賣下賣捌規則ヲ定ム

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

證券印紙手形用紙共

烟草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

收入印紙(三十一勅令第八十七號ヲ以テ追加)

第二條 各府縣ニ左ノ印紙類賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

第九類 印紙類賣下賣捌規則

「府縣廳」ヨリ印紙類ヲ拂受ケ之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス
賣捌人

元賣捌人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痍又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者

二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ「府縣廳」ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 (三十一年勅令第百八十
七號ヲ以テ本條刪除)

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回貳千圓以上ハ公債證書ヲ抵當トナシ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙類額面ニ對シ百分ノ十以内ノ割引ヲ以テ交換又ハ

買戻ヲ請求スルコトヲ得但交換印紙ハ拾錢以上取經メタルモノニ限ル

一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ

一 印紙不用ニ歸シタルトキ

第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其効ヲ失フモノトス

一 恩給若ハ扶助料ヲ受クル者其權利消滅若ハ停止セラレタルトキ

一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引歩合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大

藏大臣之ヲ定ム

附 則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸

次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ラス來ル明治二十五年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ施行セズ

○

○不用手形用紙處分明治三十二年三月
勅令第百五十六號

第九條 不用手形用紙處分

朕不用手形用紙處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 印紙類元賣捌人又ハ賣捌人ノ所有スル不用ノ手形用紙ハ其ノ請求ニ依リ政府ニ於テ之ヲ買上又ハ印紙ト交換スヘシ

第二條 政府ハ所轄稅務管理局長ヲシテ前條ノ請求ヲ受理シ左ノ價格割合ニ依リ買上又ハ交換ヲ爲サシム

一 買上 手形用紙額面金額百圓ニ付金九十四圓ノ價格

二 交換 手形用紙額面金額百圓ニ付印紙額面金額百圓

第三條 印紙類元賣捌人及賣捌人間ニ於テハ前條ノ價格割合ニ依ラス任意ニ賣買交換スルコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○清國及朝鮮國在留日本帝國臣民印紙賣捌規程明治二十六年一月勅令第一號

朕清國及朝鮮國在留日本帝國臣民印紙賣捌規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清國及朝鮮國在留日本帝國臣民印紙賣捌規程

第一條 清國及朝鮮國在留日本帝國臣民ニシテ「訴訟用印紙並ニ登記印紙」ヲ賣捌カントスル者ハ其地ノ日本帝國領事館ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル印紙賣捌人ハ便宜各府縣印紙類元賣捌人ヨリ印紙ヲ買受ケ領事館ノ許可シタル區域内ニ於テ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 印紙賣捌人ニハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則ヲ適用ス

○取引所稅法明治二十六年三月法律第六號

沿革略記 明治十一年九月第三十號布告ヲ以テ株式取引所稅額及納期ヲ定ム●十五年十二月第六十五號布告ヲ以テ米商會所株式取引所仲買人納稅規則ヲ定ム●十八年十一月第三十八號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ米商會所株式取引所稅規則ヲ定ム●二十六年三月法律第六號ヲ以テ取引所稅法ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所稅法

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、右價證券 賣買各約定代金高 萬分ノ六箇

一 國債及地方債證券 同 萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ

取引所税額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所税金ハ每一箇月分ヲ翌月二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脱税ヲ圖リ又ハ脱税シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一回以上一回九十九圓以下ノ科料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

附則

○北海道水産稅則 明治二十年三月 勅令第六號

沿革略記 明治六年十月開拓使無償布達ヲ以テ北海道水産物輸出取締ノ爲メ出帆免狀ヲ下付スルモノト爲ス○八年二月第

拾五布政令第六號ヲ以テ總テ前令ヲ廢シ更ニ北海道水産稅則ヲ公布ス

朕北海道水産稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

二十五年大
省令第六號
以本則ヲ定
行細則ヲ定

北海道水産稅則

第一條 北海道水産物營業人ハ此稅則ニ從ヒ水産稅ヲ納ムヘシ

第二條 北海道廳長官ハ水産稅ヲ徴收スル爲メ水産物營業人ノ組合ヲ定ムヘシ

第三條 水産稅ハ各組合水産物產出高價額百分ノ五ヲ以テ其組合一箇年ノ稅額ト爲シ之ヲ各營業人ニ賦課スルモノトス

第四條 此稅則ニ於テ水産物トハ左ノ種類ヲ云フ

第一類

生鮭

生鮭

海馬

生鮭

生鮭

生鮭

第二類

魚粕

乾外割鮭

乾鮭

乾鮭

海扇殼

乾身缺鮭

乾二ツ割鮭

乾鮭

乾鮭

乾海扇

乾胴鮭

鮭餅粕

鹽鮭

乾鮭

乾海扇

乾脊割鮭

鹽鮭

鹽鮭

鹽鮭

昆布

細布

若布

銀杏草

第五條 此稅則ニ於テ水産物營業人トハ第四條第一類ノ水産物ヲ採取スル者又ハ原品ニ勞力ヲ加ヘ

テ第四條第二類ノ水産物ト爲ス者ヲ云フ

第六條 水産稅ハ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ水産物產出高ヲ平均シ其三箇年間北海道

ニ於テ該稅品拂下ヲ爲シタル代價ヲ平均シテ價額ヲ定メ其組合ノ稅額ヲ算出スルモノトス但明治

二十年以後三箇年以上ヲ經過シ大藏大臣ニ於テ北海道ノ全部又ハ其幾分ニ就キ水産物既定ノ價額

不相當ナリト認ムルトキハ更ニ既往三箇年間ノ產出高并其賣買相場ヲ平均シテ之ヲ改正スヘシ

第七條 第四條第一類ノ水産物ヲ以テ第二類ノ水産物ト爲ストキハ第二類ノ水産物ニ就キ課稅ス

第八條 水産物營業人トナラントスル者ハ水産物營業人ノ組合ニ加入スヘシ

第九條 水産物營業人組合ハ納稅委員ヲ置キ其組合ニ係ル納稅ノ事ヲ擔理セシムヘシ但納稅委員ニ

關スル費用ハ其組合ノ負擔トス(二十三年法律第八號ヲ以テ本項改正)

前項納稅委員ハ組合會ニ於テ其會員中ヨリ之ヲ充ツヘキ者若干名ヲ選舉シ其中ニ就キ北海道廳長

官之ヲ指定ス但納稅委員ハ三箇年毎ニ之ヲ改選スルモノトス(二十三年法律第八號ヲ以テ本項追加)

第十條 納稅委員ハ水産物營業人組合會ヲ開キ組合ノ稅額ニ對シ各自ノ負擔スヘキ稅金ヲ評決セシ

メ郡區長ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム但營業人ノ組合會期其他本條ニ關スル手續ハ北海道廳長官之ヲ定

第十一條(二十三年法律第八號ヲ以テ收稅ヲ納稅ト改テ)
(二十三年法律第八號ヲ以テ創設)

第十二條(二十三年法律第八號ヲ以テ削除)

第十三條 第八條ノ組合ニ加入セスシテ水産物ノ營業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ

處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス

第十四條 此稅則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ不諭罪及減輕罪并加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條 水産稅ノ納期及此稅則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十六條 従前現品定稅ヲ徵收シ又ハ現品稅ヲ徵收セス若クハ無稅ニシテ明治十五年ヨリ同十七年

マテ三箇年間ノ產出高詳カガナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現產出高ニ就キ第六條ノ稅品拂下

平均代價ヲ以テ價格ヲ定メ其百分ノ五ヲ稅金トシテ徵收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シ

タル上ハ大藏大臣ニ於テ本稅則ニ據リ改正スヘシ

第十七條 前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ稅金ニ係ル事項ヲ除クノ外總テ

此稅則ニ從フヘシ

第十八條 第十六條ハ營業人ニシテ其水産物ノ產出高ヲ保リ進稅シタル者ハ其進稅高三倍ノ罰金又

ハ科料ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス但自首スル者ハ其稅金ヲ追

徵シ其罪ヲ減ハス

第十九條 明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及従前北海道物産稅ニ關スル命令規則ハ此稅則施行ノ日ヨリ廢止ス

○關稅法(明治三十三年三月)

沿革略記 明治三年正月二十七日商船規則ヲ定メ免許ナク外國へ通船スルヲ禁ス●六年一月第八號布告ヲ以テ港内取掃規則ヲ制定ス●七年十一月第百二十三號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ國內回漕規則ヲ制定●八年二月第百二十三號布告ヲ以テ外國形日本船輸出入稅未納内外貨物回漕規則ヲ定ム●九年十一月第百六十三號布告ヲ以テ七年第百二十三號布告國內回漕規則ヲ停止シ四洋形日本船各開港場出入規則ヲ定ム●九年十二月第百六十三號布告ヲ以テ七年第百二十三號布告輸入物品稅ヲ免除ス●二十三年九月法律第八十號ヲ以テ總テ前令ヲ廢シ稅關法ヲ定ム●同年同月勅令第二百三號ヲ以テ稅關規則ヲ定ム●二十六年三月法律第十三號ヲ以テ宮津港ニ於テ露領津州鹽港貿易ニ關スル船舶出入及貨物ノ積卸ヲ特許ス●二十七年五月法律第二號ヲ以テ伏木小村兩港ニ於テ露領津州鹽港貿易及朝鮮國貿易ニ關スル船舶出入及貨物ノ積卸ヲ特許ス●同年同月法律第三號ヲ以テ琉球國那覇港ニ於テ清國貿易ニ關スル船舶出入及貨物ノ積卸ヲ特許ス●三十二年三月法律第六十一號ヲ以テ關稅法ヲ定メ二十三年法律第八十號同年勅令第二百三號二十六號法律第十三號二十七年法律第二號及第三號ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル關稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關稅法

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第二章 船舶

第三章 貨物

第一節 總則

第二節 輸出輸入及積戻

第三節 回漕

第四節 郵便物

第五節 收容

第四章 稅關官吏ノ職權

第五章 異議及訴願

第六章 罰則

第七章 犯則事件ノ調査及處分

第八章 補則

關稅法

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第一條 輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

通過ノ爲輸入スル貨物ニハ關稅ヲ課セス但シ輸入ノ際擔保トシテ税金ニ相當スル金錢其ノ他ノ有價物ヲ提供スヘシ

第二條 輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請ク者アルトキハ輸入免許前ニ限り相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條 關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス但シ保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫入申告ノ日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ徵收ス

第四條 關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス但シ通脫ヲ圖リ又ハ通脫シタル關稅ハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ繼テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條 擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條 關稅ノ徵收權ハ貨物輸入ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス但シ逃脫ヲ圖リ又ハ逃脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限内ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時效ヲ中斷ス

第二章 船舶

第十條 外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ稅關ニ入港届ヲ爲シ積荷目録、艙口申告書、船用品目録及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘシ

第十一條 沿海通航船外國貨物船卸ノ爲開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ其ノ貨物ノ積荷目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目録ヲ提出シタル後ニ非サレバ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港届ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ第十四條 外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ出港スルトキハ第十條

及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 沿海通航船外國貨物ヲ積載シテ開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ其ノ貨物ノ積荷目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ積荷目録ハ貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ之ヲ調製スヘシ

第十六條 積荷目録ハ其ノ提出ノ時ヨリ二十四時以内ニ限リ稅關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルトコトヲ得

第十七條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレバ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏在ラサル時ハ警察官吏ニ届出ツヘシ

第十九條 左ニ掲クル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕セントスル船舶ノ船長ハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ

一 假ニ陸揚シタル貨物
二 運航ノ自由ヲ得サル船舶ニ積載セル貨物
三 難破貨物

第二十條 前條ノ貨物ヲ積載シ來リタル船舶開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時此内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ税關、税關ノ設置ナキ地ニ於テハ税關官吏、税關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條 税關官吏職務ノ爲船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章 貨物

第一節 總則

第二十四條 貨物ハ開港ニ由ルノ外輸出若ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 遭難船舶ノ修繕救援若ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物若ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三 遭難船舶若ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第二十五條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 日没ヨリ日出迄ノ間及税關ノ休日ニハ税關長ノ特許ヲ受ルニ非サレハ貨物ヲ税關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取發送ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 税關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ノ取扱ハ總テ税關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條 貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ税關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外税關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

第二十九條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ内國貨物トス

第三十條 貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節 輸出、輸入及積戻

第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ税關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ第二十四條但書ノ場合ニ於テハ税關官吏、税關官吏現場ニ在ラサルトキハ收税官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコトヲ得

第三十二條 輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立テ若ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十三條 通過ノ爲貨物ヲ輸入ヲ爲サントスルトキハ之ヲ輸出スヘキ地ヲ異ニスル毎キ其ノ目錄ヲ提出スヘシ

第三十四條 輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取り若ハ通過ノ爲發送スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得税金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 通過ノ爲輸入シタル貨物ノ運送ハ關稅通路ニ由ルヘシ關稅通路ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 運送人ハ通過貨物ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十七條 輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第三十二年勅令
第三百八十三號
第十條ニ依ル
十五條ニ依ル
運路ヲ定ム

第三十八條 外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ適用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 回漕

第三十九條 内外國貨物ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貨物ヲ沿海通航船ニ積載シ開港間ニ回漕セントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ回漕免許ヲ受クヘシ

第四十條 前條ノ回漕貨物ハ回漕免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第四十一條 第三十九條ノ回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ貨物ノ検査ヲ受クヘシ

第四節 郵便物

第四十二條 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條 郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ各宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條 第一條第二項但書、第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十五條及第三十七條乃至第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節 收容

第四十六條 船積ノ爲稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ハ其ノ送致若ハ陸揚ノ時ヨリ七十二時以内ニ引取、船積、發送又ハ保税倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ稅關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ

以テ之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以内ニ貨物ノ引取、船積、發送又ハ保税倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ前條ノ申告及免許ハ無効トス

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ競賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ供託スヘシ

第五十一條 收容貨物廢敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ競賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條 收容貨物ヲ競賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章 稅關官吏ノ職權

第五十三條 稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條 税關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條 税關官吏ハ船車ニ乗込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 税關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條 税關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第五章 異議及訴願

第六十一條 關稅ノ賦課ニ關スル税關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ文書ヲ以テ税關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ税關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ税關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條 評價人ハ四人トシ二人ハ税關長之ヲ命ジ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ掲クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 剝奪公權者及停止公權者

四 當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ税關長ノ認可ヲ受ケヘシ

第六十五條 評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條 異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十六條 異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ税關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條 税關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條 訴願ヲ審査セシムル爲メ委員會ヲ設ク

第七十條 委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得決議ハ出席委員ノ過半數

ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條 委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條 委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條 委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 罰則

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十六條 免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ前二條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第十條、第十一條、第十三條、第十五條、第十八條第二項、第十九條、第二十條若ハ第二十一

條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第二十六條乃至第二十八條第四十條若ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十三條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ犯罪當時ノ所有者ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ沒收シ既ニ之ヲ讓渡若ハ消費シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ犯罪者ヨリ徵收ス

第七章 犯罪事件ノ調査及處分

第八十四條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲナスコトヲ得

第八十五條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 稅關官吏ハ犯罪事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯罪者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條 稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條 稅關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムキトハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ

第八十九條 税關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船軍倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑者其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條 税關官吏犯罪事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯罪ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目録ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ税關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條 臨檢搜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條 税關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作り立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條 税關長ハ犯罪事件ノ調査ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ税關ニ納付スヘキ旨ヲ通

告スヘシ

第九十五條 犯罪者前條ヲ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ口ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間内ニ履行セザルトキハ税關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條 犯罪者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條 税關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章 補則

第九十八條 船舶修繕ヲ爲スル巨大量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸シ難キ貨物ヲ陸揚スル爲必要ト認ムルトキハ當分ノ内税關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得

第九十九條 從來ノ開港ノ外開港トナスルキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スル貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百條 本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ税關ノ休日ヲ算入セス

第一百一條 本法ノ規定中船長ニ適用スルハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百三條 明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、税關法、税關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其

ノ他本法ニ抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

○關稅法施行規則明治三十二年六月勅令第三百十九號

朕關稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

關稅法施行規則

第一章 關稅ノ賦課徵收及擔保

第一條 關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域内ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ配號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第三條 關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付金庫ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第四條 納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付スヘシ

第五條 旅客ノ携帶品關稅法第二十四條但書ニ掲ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スル由ニ他國官吏若ハ公吏ノ會同檢査ヲ要スルハ該國官吏ノ檢査ヲ以テス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタル官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第六條 關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタル郵便局ハ郵便物交付前キ也其名宛人ニ通知スル由ニ該局長ノ裁量ニ任ス

第七條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當ナル收入印紙又通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條 郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條 關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請フシトスル者ハ損傷貨物ノ配號、番號、品名、數量、原價、請費及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條 關稅ヲ擔保トシテ提供スヘキモノハ金銀及有價證券ニ限ル

第十一條 擔保ヲ提供スルモノハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條 稅關ハ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十三條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ競賣スヘシ

第十四條 前條ノ公告ヲ擔保提供者ノ住所及居所ノ氏名、證券ノ種類、金額、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スル由ニ該局長ノ裁量ニ任ス

第十五條 公賣執行前關稅及費用ヲ完納シタルトハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條 關稅法第六條但書ニ依テ擔保提供者ニ還付セル金若シテ其ノ之ヲ供託スル者

又得...

第十七條 船舶ハ入港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港時及乗組海員ノ數ヲ記載

シタル物文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ...

第十八條 關稅法第十五條ニ依リ提出セル積荷目録ニ於テ前項ニ掲ケタル事項外貨物ノ船舶ヲ爲スル

及荷受人ノ記載ヲ...

第十九條 船口申告書ニハ船口ノ所在、箇數、船用品目録ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅

客氏名表...

第二十條 關稅法第二十四條...

第二十一條...

第二十二條 外國貿易船出港ノ免許...

第二十三條 外國貨物ヲ積載セシ...

第二十四條 前條ノ特許ヲ受ケ...

第二十五條 警察官吏關稅法第十八條第二項ノ届出ヲ受ケ...

第二十六條 關稅法第十九條ニ掲...

第二十七條 外國貨物ノ假陸揚ヲ...

第二十八條 關稅法第三十一條...

第二十九條 沿海通商船海難其ノ他...

第一節 船舶稅關手續
 前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量及原價ヲ記載シタル目錄ヲ該港地所轄關稅廳ニ提出スルニ申書ハ該品ノ價目、數量、種類、原價及積入ノ年月、日、時、分、秒、ヲ以テ之キ

第三十條 日没日及日出迄ノ間凡ハ稅關閉休日當於テ貨物ヲ稅關ニ送致シ又ハ貨物ヲ引取若ル

第三十一條 前條ノ特許手數料ヲ納付スル者ハ該品ノ積入ノ時、日、時、分、秒、ヲ以テ之キ申書ヲ提出スルハ

第三十二條 稅關ニ於テ定規ノ場所以外ニ於テ貨物ヲ陸揚、船積、其外他船舶ノ陸揚、卸、下、交通

第三十三條 稅關ニ於テ受ケントスルハ者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ稅關

第三十四條 稅關ニ於テ受ケントスルハ者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ稅關

第三十五條 稅關ニ於テ受ケントスルハ者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ稅關

第三十六條 貨物積入手續
 第四十條 貨物積入手續
 第四十一條 貨物積入手續
 第四十二條 貨物積入手續
 第四十三條 貨物積入手續
 第四十四條 貨物積入手續
 第四十五條 貨物積入手續
 第四十六條 貨物積入手續
 第四十七條 貨物積入手續
 第四十八條 貨物積入手續
 第四十九條 貨物積入手續
 第五十條 貨物積入手續

第二十四條 輸出申告
 及仕向港等記載シタル文書及以テ之ヲ爲シ但シ旅客携帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テス

第二十五條 輸出申告
 輸出貨物外國産ナルトキハ其ノ産地ヲ記載スルハ

第二十六條 輸出申告
 前項再輸入ノ場所若クハ變更ノ場所、所屬文書ヲ以テ輸出港稅關ニ申告スルハ

第二十七條 輸出申告
 第三十五條關稅定率法第六條條目依從關稅ヲ免除セヨトシテ貨物ヲ輸入シタル時ハ該貨物ノ輸入後六箇月以内

第三十八條 輸出申告
 第三十六條第一項ノ規定ハ積戻申告ニ之ヲ準用ス

第三十九條 關稅定率法第五條第十號及第十一號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免

除ヲ得シトスルハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提

出シトシ 輸入申告書又並該證明書ノ日付ニハ前記證明書ノ存案機關ノ實印ノ捺入ハ輸出免

第四十條 關稅定率法第六條ニ掲ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ

目的及輸出港ヲ記載スルモノ其外ハ該貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地

輸出港ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入港稅關ニ申告スヘシ

第四十一條 通過貨物ノ輸入ハ貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地

ヲ記載スルモノ其外ハ該貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地

第四十二條 關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物ノ引取認許ヲ得シ申スル者ハ其引

取理由ヲ記載シタル申請書又稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ル

際許得ルモノハ該貨物ノ記號又番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條 貨物ノ仕入書ハ輸入免許ヲ爲スト同時ニ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第四十四條 陸揚郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ

郵便物檢査ナルトキハ郵便局長立會リ正之ヲ行フヘシ

第四十五條 郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵便局ハ關稅法第四十二條ニ依リ發シ

タル通知書其ノ理由ヲ記載シ稅關ニ還付スルモノ其外ハ該貨物ノ輸入申告書又文書ノ以テ

第三十條 第四條 貨物ノ回漕

第四十六條 貨物回漕ノ申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、陸揚地、内外國貨物ノ區別、貨物ノ

種類、數量、品名、數量、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條 回漕貨物船舶ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ回漕免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ

稅關關吏於テ前項免狀ヲ受テアルトキハ貨物ヲ檢査認許後免狀ヲ符合スルモノ以テ該免狀同

漕納シ得ルモノヲ記入シテ提出者ニ還付スヘシ

第四十八條 第五節 貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條 關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ告示書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及數量

ヲ記載スルモノ其外ハ該貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地

第四十九條 關稅法第五十條ノ公告ニハ前條ニ掲ケタル事項、該貨物ノ事由、該貨物ノ場所及時其

ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十條 前收容貨物ノ數量ニ大藏大臣之決定ニ異議アリタルモノハ該貨物ノ輸入申告書

第五十條 關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル

年月日又記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ヲ表示スヘシ

第五十三條 異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定

書本文書記載スルモノ其外ハ該貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地

第五十三條 判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ

三十二年大藏
省令第三十號
ヲ以テ第五十
條ニ依リ收容
貨物ノ數量ヲ
定ム

第五十四條 鑑定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徴スヘシ

第五十五條 異議者ハ住所ノ居所不明ナル者又ハ其ノ他ノ事故由因ノ判定書ヲ交付シ以テ其ノ

前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ経過シタルトキヲ以テ判定書ヲ交付シ以テ其ノ

第五十六條 關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキ

第五十七條 異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタル後七日以内ニ評價人ヲ選定シ其

ノ職業ノ住所又ハ居所ノ氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請

第五十八條 稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ

第五十九條 稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シ之ヲ異議者ニ通知

第六十條 同條ノ規定ニ依リ評價ノ理由ヲ詳細ニシタル評價書ヲ作り之ヲ稅關ニ提出

第六十一條 評價額ヲタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十二條 差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十三條 差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時物件所持者ノ住所又ハ居所ノ氏名

第六十四條 差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徴シ市

第六十五條 關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ之ヲ公告シテ競賣ニ付スヘシ

第六十六條 臨檢、搜索及訊問調査ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記

第六十七條 稅關官吏犯罪事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

第六十八條 關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第六十九條 關稅法第九十四條ニ掲ケタル事項ノ外犯罪ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、

納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第七十條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十一條 關稅法施行規則

第七十二條 關稅法施行規則

第七十三條 關稅法施行規則

第七十四條 關稅法施行規則

第七十五條 關稅法施行規則

第七十六條 關稅法施行規則

第七十七條 關稅法施行規則

第七十八條 關稅法施行規則

第七十九條 關稅法施行規則

第八十條 關稅法施行規則

第八十一條 關稅法施行規則

第八十二條 關稅法施行規則

第八十三條 關稅法施行規則

第八十四條 關稅法施行規則

第八十五條 關稅法施行規則

第八十六條 關稅法施行規則

第八十七條 關稅法施行規則

第八十八條 關稅法施行規則

第八十九條 關稅法施行規則

第九十條 關稅法施行規則

第七十條 沒收該當物品ヲ引取市町村役場ニ保管スル係ルモノニ保管人債納付ノ手續ヲ爲
スルハ其ノ規則ニ依リテ爲スルコトナリ

第七十一條 税關長犯罪事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目録ニ其ノ裁判
所ニ引續クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引續ノ旨ヲ保管者ニ通知
スルコトナリ

第七十二條 罰則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除若ハ欄外ノ
記入ヲ爲シタル者ハ之ニ懲罰爲スルコトナリ

第六十條 第六十條ノ規定ニ依リテ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スルハ其ノ契印ニ付スルコト
ナリ

第七十三條 税關ハ職務時間ニ依リテ除キ午前十時ヨリ午後四時迄トス

第七十四條 税關ノ職務時間外ニ於テ臨時開關ノ特許ヲ請フハ其ノ開關ノ期間及其ノ期
間中ニ爲スル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルコトナリ

前項ノ特許ヲ受ケル者ハ特許手数料ヲ納ムヘシ

第七十五條 關稅法第九十八條ノ特許ヲ得トスル者ハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由
貨物ノ種類並ニ其ノ品名數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ税關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タル船舶長ハ特許手数料ヲ税關ニ納付スルコトナリ

第七十六條 税關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手数料ヲ納ムヘシ

第七十七條 大藏大臣ハ棧橋、起重機其ノ他税關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使
用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條 手数料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條 手数料及使用料ノ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第八十條 税關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ
管轄區域外ニ於テ直接間接問ハス之ヲ買受タル者ハ罰金ニ處スルコトナリ

第八十一條 關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日
記載セシメ捺印シタルニ依リテ爲スルコトナリ

第八十二條 又申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者
之ノ署名スルコトナリ

第九條 關稅法施行規則

第八百五十九

三十二年大藏
省令第三十四號
關稅法施行規則
第九條

第八十三條 關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄内ニ在リ
 前項以外稅關手續ニ規定ハ稅 支署ニ之ヲ準用ス

第八十四條 本規則ハ關稅法施行日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨリ

第六節 假置場法 明治三十三年四月

第八十五條 明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○稅關假置場法 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場ヲ置キ陸揚シタル外國貨物ヲ假ニ藏置スルコトヲ許ス

第二條 假置場ヲ置クヘキ稅關ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 假置場ニ藏置シタル貨物ハ輸入セザルモノト看做ス

第四條 藏置貨物ハ假置場内ニ於テ收裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲スコトヲ得

第五條 貨物藏置ノ期間ハ滿三箇月以内トス但シ稅關長ハ申請ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ
 延長スルコトヲ得

第六條 稅關長ハ假置場ハ秩序若ハ取締又ハ貨物ノ整理ニ關シ必要ト認ムルトキハ貨物ノ移出
 ヲ命シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 藏置貨物藏置ノ期間ヲ經過シタルトキ又ハ前條ニ依リ藏置貨物ノ移出ヲ命セラレタル
 時稅關長ハ指定期間内ニ移出セザルモノトシテ關稅法ニ依リ之ヲ收容スルコトヲ得

第八條 稅關官吏ハ假置場ニ出入セザルモノトシテ身體及之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ藏置貨物ノ損害ニ付賠償ノ責任ヲ負フ

第十條 假置場ニ貨物ヲ移入セムトスル者ハ稅關ニ申告スヘシ

第十一條 藏置貨物ハ輸入、積長洶漕又ハ保稅倉庫庫内ニ免許ヲ受付又ハ稅關長ノ許可ヲ受付
 タル後ニ非サレハ之ヲ移出スルコトヲ得ス

第十二條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第一條 稅關假置場法施行規則 明治三十三年四月

第二條 稅關假置場ハ地庫ハ大藏大臣之ヲ指定シ得ル

第三條 貨物ノ移入申告ハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、簡數、數量及價格ヲ記號シテ文書ニ以テ之ヲ爲シ、之ニシテハ各節ニシテ

第四條 稅關假置場法第五條但書ニ關シテ貨物積置期間ノ延長ヲ申請セムトスル者ハ其ノ貨物ノ記號、番號、品名、簡數、數量、延長期間及理由ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出シ特許ヲ受ク

第五條 稅關假置場之日没ヨリ出陣之日没ヨリ間及稅關ノ休日迄之ヲ閉鎖ス但シ稅關長ハ臨時開場ヲ特許シ得ル

第六條 日没ヨリ出陣ヨリ迄又ハ稅關ノ休日迄之ヲ臨時開場ノ特許ヲ受ケムトスル者ハ必要ノ由及期間ヲ記載シテ申請書ヲ稅關ニ提出ス

第七條 第四條及第六條ノ特許ヲ受ケタル者ハ手數料ヲ納ム

第八條 稅關假置場ヲ使用スル者ハ其ノ使用料ヲ納ム

第九條 使用料及手數料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十條 手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

本令ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附屬稅表第一種第十五類ニ屬スル物品ニシテ酒精濃度計五度以上者ハ其ノ原容量百分中酒精濃度六十五ヲ超過スルモノハ第六十九號酒精濃度ニ依リ課稅ス

第三條 物品ノ課稅價格ハ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ地輸入港ニ到着スル迄ノ諸費ヲ加テ算定ス

第四條 附屬稅表ニ掲ケル物品ニシテ從價稅ニ代フルニ從量稅ヲ以テスルヲ便宜トスルモノハ勅令ヲ以テ其ノ物品及細別ヲ定ムルコトヲ得

第五條 前項ノ從量稅ノ算法ニ依リ六箇月以上ノ平均價格ヲ算出シ附屬稅表ノ稅率ニ基キ之ヲ定ム

第六條 附屬稅表中一箇以上ノ稅率適用シ得ル物品ニ對シテハ其ノ最高ノ率ニ從テ課稅ス

第七條 在ノ物品ハ輸入稅ヲ課セス

第一 御料品

第二 帝國陸軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物

第三 海軍艦船

第四 帝國ニ派遣セラレタル各國公使ニ屬スル日用品

第五 勳章賞牌

第六 記録文書其他ノ書類

第七 商品ノ見本但シ見本用ニシテ適クシニ限ル

第八 旅具(旅客携帯スルモノ)但シ輸入品ニシテ必要ノ品ニシテ其ノ運送費及貯蔵費ノ額其

第九 官立公立ノ博物館及物品陳列所ノ永久陳列ニシテ輸入スル物品(本報第十

第十 内國産ニシテ五箇年以内ニ外國ヨリ積戻ル輸出品ノ性質及形状ノ變更ヲ阻礙スル

第十一 酒類ヲ除クハ其ノ輸入額ノ二割ヲ以テ輸入スルモノハ輸入スルモノ

第十二 一長修繕ノ爲外國ニ輸出シ再シ輸入シタルモノハ輸入額ノ二割ヲ以テ輸入スルモノ

第十三 政府ヨリ輸入ニ係ル政府ノ專賣品(三十二年法律第十

第十四 第八號第九號ノ物品ニ對シテ於該相當稅額及貯蔵費ノ額ニ限ル

第十五 第八號第九號ノ物品ニ對シテ再輸入ノ期限ヲ定ムヘシ

第六條 左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ再ヒ輸出スルモノハ輸入税ヲ課セス

但シ輸入ノ際其ノ輸入税金ニ相當スル金額ヲ預入シ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

第一 修繕ノ爲一時輸入スルモノ

第二 學術研究旅行者使用ノ爲一時輸入スルモノ

第三 試驗品トシテ一時輸入スルモノ

第四 商人、工業者及注文取扱旅商ノ見本品トシテ一時輸入スルモノ

第五 演劇其他興行用ノ爲一時輸入スルモノ

第七條 附屬稅表中改正ヲ要スルトキハ施行期日ヨリ少ナクモ六箇月前ニ之ヲ公布ス

附則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輸入稅表

番號	品名	稅率	番號	品名	稅率	番號	品名	稅率
第一種	有稅品		六	鐘錶、時計及同部分品(航海用ノモノ)	〇〇	一七	諸器械及同部分品(別項ニ掲ケサルモノ)	〇〇
第一類	計、學術器	二五	七	掛橋(各種)	〇〇	一八	顯微鏡及同部分品	〇〇
二	大砲、小銃、霰銃、刀劍、砲	〇〇	八	刃物(別項ニ掲ケサルモノ)	〇〇	一九	蓄音器及同部分品	二五
三	兩儀及尺度	〇〇	九	浴水器及同部分品	〇〇	二〇	吹笛器及同部分品	〇〇
四	兩儀計	〇〇	一〇	電燈器械及同部分品	〇〇	二一	縫衣機及同部分品	〇〇
五	草ヲ以テ製シ若クハ塗シタルモノ	一五	一一	消防器及同部分品	〇〇	二二	眼鏡及同部分品	〇〇
六	其ノ他各種	二〇	一二	農具、工匠具及同部分品	〇〇	二三	鐵鏡及同部分品	〇〇
七	五箇時計、掛時計及同部分品	二〇	一三	樂器及同部分品	〇〇	二四	汽機及同部分品	二五
八			一四	印刷器、化學器、製圖器、測量器、外科器械其他諸學術器(別項ニ掲ケサルモノ)	一五	二五	電扇機及同部分品	〇〇
九			一五	寫真器及同部分品	〇〇	二六	望遠鏡	〇〇
一〇			一六	鐵道機關車及同部分品	〇五	二七	英阿計	〇〇
						二八	印字機	〇〇
						二九	懷中時計機中時計側及同附屬品	〇〇
						甲	金製及白金製ノモ	〇〇

三十二年法律第六十八號及第六十九號ヲ改正ス

三〇	懷中時計機械及同部分品	二、五〇	二、五〇
三二	第二類 飲食物 一 礦水、橙汽水、曹達水ノ如 キ酒類ヲ含マサル飲 料	一、〇〇	一、〇〇
三三	第三類 乾麵包 甲 船用ノモノ 乙 菓子製ノモノ	一、〇〇	一、〇〇
三四	乳油	一、〇〇	一、〇〇
三五	咖啡	一、〇〇	一、〇〇
三六	精製類	一、〇〇	一、〇〇
三七	生卵	一、〇〇	一、〇〇
三八	麥粉其ノ他穀粉、澱粉類	一、〇〇	一、〇〇
三九	生菜、乾菜及別項ニ掲ケ サル菓子	一、〇〇	一、〇〇
四〇	ハム及ベーコン	一、〇〇	一、〇〇
四一	鮮肉	一、〇〇	一、〇〇
四二	乳膏及乳粉	一、〇〇	一、〇〇
四三	胡椒	一、〇〇	一、〇〇
四四	食鹽(海鹽ト礦鹽トヲ別 タス)	一、〇〇	一、〇〇
四五	微菌 甲 粗製ノモノ 乙 精製ノモノ	一、〇〇	一、〇〇
四六	鹹肉	一、〇〇	一、〇〇
四七	石花菜	一、〇〇	一、〇〇
四八	茶	二、五〇	二、五〇
四九	生茶、乾茶及曬茶	一、〇〇	一、〇〇
五〇	其ノ他各種ノ食物	一、〇〇	一、〇〇
五一	第三類 衣服及附屬 品 一 長靴及短靴(各種)	二、〇〇	二、〇〇
五二	襪	二、〇〇	二、〇〇
五三	鈕釦、扣子、鈎子類(除紐 釦外)	二、〇〇	二、〇〇
五四	襪卷	二、〇〇	二、〇〇
五五	手袋(各種)	二、〇〇	二、〇〇
五六	帽子	二、〇〇	二、〇〇
五七	珠玉及金銀珠玉ノモノ	二、〇〇	二、〇〇
五八	布衣 甲 毛製、絹製、絹製及 絹入ノモノ 乙 其ノ他各種	二、〇〇	二、〇〇
五九	襪	二、〇〇	二、〇〇
六〇	足袋(長短ヲ別タス、 ソックスヲ別タス)	二、〇〇	二、〇〇
六一	第一類 綿織、毛製及毛織 製ノモノ 乙 絹製及絹入ノモノ 丙 其ノ他各種 甲 金製及白金製ノ (珠玉ヲ嵌メタル ト否トヲ別タス) 乙、其ノ他各種 六二 雜飾料(平紐、組紐、レ ルス、穗、ノツツ、ス、メ ル、其ノ他別項ニ掲ケサ ル各種) 甲 金銀製及金銀入ノ モノ 乙 絹製及絹入ノモノ 丙 其ノ他各種 六三 肌衣(上下ヲ別タス、メリ ヤス製ノモノ) 甲 絹製、毛製及毛織 製ノモノ 乙 絹製及絹入ノモノ 丙 其ノ他各種 六四 雨衣 甲 絹製及絹入ノモノ 乙 其ノ他各種 六五 其ノ他各種ノ衣服及附屬 品	二、〇〇	二、〇〇

六六	石炭酸	二、五〇	二、五〇
六七	撒里矢爾酸	一、〇〇	一、〇〇
六八	酒石酸	一、〇〇	一、〇〇
六九	酒精(アルコール)	二、五〇	二、五〇
七〇	明礬	一、〇〇	一、〇〇
七一	安知那親林	一、〇〇	一、〇〇
七二	安知那必林	一、〇〇	一、〇〇
七三	檳榔子	一、〇〇	一、〇〇
七四	白朮	一、〇〇	一、〇〇
七五	次硝酸香鉛	一、〇〇	一、〇〇
七六	晒白粉(格魯兒石灰)	一、〇〇	一、〇〇
七七	礬砂(礬酸鹽)	一、〇〇	一、〇〇
七八	龍腦及艾片	一、〇〇	一、〇〇
七九	桂皮	一、〇〇	一、〇〇
八〇	桂皮油	一、〇〇	一、〇〇
八一	檀香	一、〇〇	一、〇〇
八二	親那皮	一、〇〇	一、〇〇
八三	聖古尼涅(鹽酸若クハ流 酸)	一、〇〇	一、〇〇
八四	辰砂(赤色硫化汞)	一、〇〇	一、〇〇
八五	丁香	一、〇〇	一、〇〇
八六	鹽酸古加乙涅	一、〇〇	一、〇〇
八七	肝油	一、〇〇	一、〇〇
八八	寶真用古魯胃酸及附屬ノ 沃度意撒兒	一、〇〇	一、〇〇
八九	古魯佛俱	一、〇〇	一、〇〇
九〇	牛黃	一、〇〇	一、〇〇
九一	阿刺刺及檳榔膏	一、〇〇	一、〇〇
九二	健胃聖那(龍睛)	一、〇〇	一、〇〇
九三	人參	一、〇〇	一、〇〇
九四	個出散林	一、〇〇	一、〇〇
九五	亞拉基亞膠膜	一、〇〇	一、〇〇
九六	安島香	一、〇〇	一、〇〇
九七	鐵鱗血	一、〇〇	一、〇〇
九八	沒藥	一、〇〇	一、〇〇
九九	乳香	一、〇〇	一、〇〇
一〇〇	苦草	一、〇〇	一、〇〇
一〇一	沃度仿讓	一、〇〇	一、〇〇
一〇二	吐根	一、〇〇	一、〇〇
一〇三	刺刺巴根	一、〇〇	一、〇〇
一〇四	酸酐(鉛糖)	一、〇〇	一、〇〇
一〇五	甘草	一、〇〇	一、〇〇
一〇六	麻黃	一、〇〇	一、〇〇
一〇七	過酸化學	一、〇〇	一、〇〇
一〇八	莫兒比涅(鹽酸若クハ硫 酸)	一、〇〇	一、〇〇
一〇九	麝香	一、〇〇	一、〇〇
一一〇	檀香(人造ノモノ)	一、〇〇	一、〇〇
一一一	甘松	一、〇〇	一、〇〇
一一二	鹽酸必魯加兒必涅	一、〇〇	一、〇〇
一一三	亞羅羅羅亞亞斯	一、〇〇	一、〇〇
一一四	沃度刺魯亞斯	一、〇〇	一、〇〇
一一五	木香	一、〇〇	一、〇〇
一一六	規尼涅(鹽酸若クハ硫酸)	一、〇〇	一、〇〇
一一七	規尼涅	一、〇〇	一、〇〇
一一八	規尼涅	一、〇〇	一、〇〇
一一九	規尼涅	一、〇〇	一、〇〇
一二〇	規尼涅	一、〇〇	一、〇〇
一二一	大黃(塊粉ヲ別タス)	一、〇〇	一、〇〇
一二二	消美蘭	一、〇〇	一、〇〇
一二三	硼石(硝酸制魯亞斯)	一、〇〇	一、〇〇
一二四	撒兒沙巴利刺	一、〇〇	一、〇〇
一二五	攝瀉支奈	一、〇〇	一、〇〇
一二六	炒刺克	一、〇〇	一、〇〇
一二七	曹達灰	一、〇〇	一、〇〇
一二八	重碳酸鹽	一、〇〇	一、〇〇
一二九	苛性曹達	一、〇〇	一、〇〇
一三〇	結晶曹達(洗濯曹達)	一、〇〇	一、〇〇
一三一	撒里矢爾酸曹達	一、〇〇	一、〇〇
一三二	蒼朮	一、〇〇	一、〇〇
一三三	紫梗	一、〇〇	一、〇〇
一三四	ワアスリン	一、〇〇	一、〇〇
一三五	黃芩	一、〇〇	一、〇〇
一三六	其ノ他雜藥材、化學藥及 製藥	一、〇〇	一、〇〇
一三七	アザリン染料	一、〇〇	一、〇〇
一三八	アニン染料	一、〇〇	一、〇〇
一三九	結晶(乾濕ヲ別タス、雜物 ヨリ製シタルモノ)	一、〇〇	一、〇〇
一四〇	洋紅	一、〇〇	一、〇〇
一四一	酸化古拔爾藍	一、〇〇	一、〇〇
一四二	呀囉囉	一、〇〇	一、〇〇
一四三	花綠膏	一、〇〇	一、〇〇
一四四	沒食子及五倍子	一、〇〇	一、〇〇
一四五	第一類 染料、紅料 及塗料	一、〇〇	一、〇〇

一四七 雜貨	一四八 金液、銀液及白金液	一四九 水藍	一五〇 水藍	一五一 水藍	一五二 水藍	一五三 水藍	一五四 水藍	一五五 水藍	一五六 水藍	一五七 水藍	一五八 水藍	一五九 水藍	一六〇 水藍	一六一 水藍	一六二 水藍	一六三 水藍	一六四 水藍	一六五 水藍	一六六 水藍	一六七 水藍
一六八 雜貨	一六九 金液、銀液及白金液	一七〇 水藍	一七一 水藍	一七二 水藍	一七三 水藍	一七四 水藍	一七五 水藍	一七六 水藍	一七七 水藍	一七八 水藍	一七九 水藍	一八〇 水藍	一八一 水藍	一八二 水藍	一八三 水藍	一八四 水藍	一八五 水藍	一八六 水藍	一八七 水藍	一八八 水藍
一八九 雜貨	一九〇 金液、銀液及白金液	一九一 水藍	一九二 水藍	一九三 水藍	一九四 水藍	一九五 水藍	一九六 水藍	一九七 水藍	一九八 水藍	一九九 水藍	二〇〇 水藍	二〇一 水藍	二〇二 水藍	二〇三 水藍	二〇四 水藍	二〇五 水藍	二〇六 水藍	二〇七 水藍	二〇八 水藍	二〇九 水藍
二一〇 雜貨	二一一 金液、銀液及白金液	二一二 水藍	二一三 水藍	二一四 水藍	二一五 水藍	二一六 水藍	二一七 水藍	二一八 水藍	二一九 水藍	二二〇 水藍	二二一 水藍	二二二 水藍	二二三 水藍	二二四 水藍	二二五 水藍	二二六 水藍	二二七 水藍	二二八 水藍	二二九 水藍	二三〇 水藍

二四〇 雜貨	二四一 金液、銀液及白金液	二四二 水藍	二四三 水藍	二四四 水藍	二四五 水藍	二四六 水藍	二四七 水藍	二四八 水藍	二四九 水藍	二五〇 水藍	二五一 水藍	二五二 水藍	二五三 水藍	二五四 水藍	二五五 水藍	二五六 水藍	二五七 水藍	二五八 水藍	二五九 水藍	二六〇 水藍
二六一 雜貨	二六二 金液、銀液及白金液	二六三 水藍	二六四 水藍	二六五 水藍	二六六 水藍	二六七 水藍	二六八 水藍	二六九 水藍	二七〇 水藍	二七一 水藍	二七二 水藍	二七三 水藍	二七四 水藍	二七五 水藍	二七六 水藍	二七七 水藍	二七八 水藍	二七九 水藍	二八〇 水藍	二八一 水藍
二八二 雜貨	二八三 金液、銀液及白金液	二八四 水藍	二八五 水藍	二八六 水藍	二八七 水藍	二八八 水藍	二八九 水藍	二九〇 水藍	二九一 水藍	二九二 水藍	二九三 水藍	二九四 水藍	二九五 水藍	二九六 水藍	二九七 水藍	二九八 水藍	二九九 水藍	三〇〇 水藍	三〇一 水藍	三〇二 水藍
三〇三 雜貨	三〇四 金液、銀液及白金液	三〇五 水藍	三〇六 水藍	三〇七 水藍	三〇八 水藍	三〇九 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍	三一〇 水藍

第九類 鐵器及五金

八百六十九

八百六十九

二六二鐵鏈(別項ニ掲ケサルモノ)	二六三戸鎖戸鎖戸鎖、螺鈿類	二六四金銀其ノ他金屬箔及粉	二六五金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	二六六鍍金銀器(別項ニ掲ケサルモノ)	二六七磁爐、區爐及附屬品	二六八貨幣匣	二六九金骨及附屬金具	二七〇其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ金屬	二七一其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ金屬製品	第十類 油蠟	二七二蠟燭	二七三氣油	二七四豆油	二七五蓖麻子油	二七六椰子油	二七七落花生豆油	二七八石油	二七九亞麻子油	二八〇阿列布油	二八一椰子油	二八二無味香油	二八三松精油	二八四蠟白蠟(蠟)		
一一五	一一五	一一五	三五五	二二五	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	一一五	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇		
二八六其ノ他各種ノ油蠟	第二十一類 紙及文具	二八七集書帖(寫真用及郵便切符貼用ノモノ)	二八八白紙帳簿及書式類	二八九墨汁(印刷用、寫字用、記用及石版用ノモノ)	二九〇唐紙類(各種)	二九一燈紙	二九二印刷料紙	二九三其ノ他各種ノ紙類	二九四鉛筆	甲 金製及白金製ノモノ	乙 其ノ他各種	二九五番幣	甲 金製ノモノ	乙 其ノ他各種	二九六封蠟	二九七蠟紙	二九八其ノ他各種ノ文具	第十二類 砂糖	二九九砂糖	三〇〇精糖	三〇一水砂糖	三〇二糖密	三〇三糖水		
一一〇	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇		
第十三類 布帛、絲、綢及同材料	第一	三〇四綿織絲	三〇五綿織絲	三〇六製木用綿布	三〇七綿織子	三〇八雲齊布	三〇九綿帆布	三一〇更紗類	三一〇綿織子、綿アロケード綿	イタリヤアンズ及救金巾	三一二綿天鵞絨	三一二ギンハン	三一二生金巾	三一二晒金巾	三一二綾金巾	三一二七色金巾	三一二八唐棧	三一二九天竺布(小幅金巾)	三一二〇排金巾	三一二一寒冷紗	三一二二其ノ他各種ノ綿布(純綿)	ト他物ヲ交ヘタルトテ別タス但シ綿ノ重量超過スルモノ)	第二	三二三毛織及ウルクステッド綿(各種)	三三四アルバカ
一一〇	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	

三二五綿織品	三二六麻布	三二七吳呂、綾吳呂及碎吳呂	三二八ガムレット、コールド	三二九救吳呂	三三〇フランネル(毛製及毛織製ノモノ)	三三一イタリヤアン、クロイツ	三三二維世伊多	三三三縮細吳呂(毛製及毛織製ノモノ)	三三四チリアンズ及ラストル	三三五セルヂス	三三六スパンニシ、ストワイナス	三三七綿紗(各種)	三三八毛織子	三三九毛織子	三四〇其ノ他各種ノ毛布(純毛)	ト他物ヲ交ヘタルトテ別タス但シ毛ノ重量超過スルモノ)	第三	三四一牛絲、熟絲、玉絲、野絲、周絲及野蘭絲	三四二絹織	三四三絹織(紡績シタル)及絹	三四四絹織類(別項ニ掲ケサルモノ)				
一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五
三四五支那那細	三四六支那那細	三四七支那那細	三四八支那那細	三四九支那那細	三五〇刺繡布及刺繡綿布	三五一其ノ他各種ノ綿布(純綿)	ト他物ヲ交ヘタルトテ別タス但シ綿ノ重量超過スルモノ)	第四	三五二麻織絲	三五三麻織絲	三四四麻帆布	三五五麻布(生、晒、染色若クハ形付ノモノ)	三五六麻織子	三五七其ノ他各種ノ麻布(純麻トト他物ヲ交ヘタルトテ別タス但シ麻ノ重量超過スルモノ)	第五	三五八アランケット(麻製織製)	三五九アラツセルス織	三六〇フェルト織	三六一麻氈	三六二ハテントタ、ベストリ	三六三氈其ノ他各種ノ地氈	三六四竹布			
一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五	一一五
三六五麻織	甲 絹製及絹入ノモノ	其ノ他各種	三六六麻織布	甲 絹入ノモノ	乙 其ノ他各種	三六七麻織類	甲 絹製、麻製及麻織製ノ(麻製織製ヲ別タス)	乙 絹製及レース製ノモノ)	三六八手巾	三六九蚊帳(各種)	三七〇草布(家具等ニ用ルモノ)	三七一油布及リノリュム(麻ニ用ルモノ)	三七二襪衣	甲 絹製及絹入ノモノ	乙 其他各種	三七三浴巾(雷製織製ヲ別タス)	各種)	三七四浴巾(雷製織製ヲ別タス)	甲 絹入ノモノ	乙 其ノ他各種	三七五綿織及苧麻織	三七六織絲及織絲(別項ニ掲ケサル各種)			
一一五	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇

三九七 葡萄酒(赤白ナ別タス)	三九五 ウエルモツト	三九四 シェリー	三九三 清酒(内細釀造類ノモ)	三九二 ラム	三九一 ポルト	三九〇 リキエール(各種)	三八九 杜松子酒	三八八 支那酒	三八七 シヤムパン	三八六 アランデー	三八五 麥酒及黑麥酒	三七八 其ノ他各種ノ布帛	三七七 其ノ他各種ノ布帛	
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
四〇二 玻璃	四〇一 琥珀	四〇〇 沈香	三九九 其ノ他各種ノ酒精	三九八 其ノ他各種ノ酒精	三九七 其ノ他各種ノ酒精	三九六 其ノ他各種ノ酒精	三九五 其ノ他各種ノ酒精	三九四 其ノ他各種ノ酒精	三九三 其ノ他各種ノ酒精	三九二 其ノ他各種ノ酒精	三九一 其ノ他各種ノ酒精	三九〇 其ノ他各種ノ酒精	三八九 其ノ他各種ノ酒精	
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
四一三 乘車、自轉車及同部分品	四一四 鐵道客車及同部分品	四一五 鐵道貨車及同部分品	四一六 鐵道馬車及同部分品	四一七 貨車	四一八 セリユロイド	四一九 板岩クハ等	四二〇 エチ加ヘタルモノ	四二一 ボルト、ナット、セメント	四二二 白漆及ホワイチング	四二三 木炭及骨炭	四二四 粘土(各種)	四二五 石灰及磚炭	四二六 珊瑚(加工シタルト否トナ別タス)	四二七 浮麻繩索(船用ト否トナ別タス)
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
四二八 塞子	四二九 玻璃刀	四三〇 グイナマイト	四三一 金剛砂	四三二 金剛砂布及砂紙	四三三 金剛砂紙其ノ他各種ノ砥石	四三四 フェルト(船底用若クハ屋背用ノモノ)	四三五 煙火(各種)	四三六 天鰐膠、漁川ノモノ	四三七 塞子樹皮	四三八 塞子	四三九 玻璃刀	四四〇 グイナマイト	四四一 金剛砂	四四二 金剛砂布及砂紙
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
四四三 乘車、自轉車及同部分品	四四四 鐵道客車及同部分品	四四五 鐵道貨車及同部分品	四四六 鐵道馬車及同部分品	四四七 貨車	四四八 セリユロイド	四四九 板岩クハ等	四五〇 エチ加ヘタルモノ	四五一 ボルト、ナット、セメント	四五二 白漆及ホワイチング	四五三 木炭及骨炭	四五四 粘土(各種)	四五五 石灰及磚炭	四五六 珊瑚(加工シタルト否トナ別タス)	四五七 浮麻繩索(船用ト否トナ別タス)
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	

四三七 磁石	四三八 磁石	四三九 磁石及天井線	四四〇 海綿	四四一 家具(新故ナ別タス別項ニ掲ケサルモノ)	四四二 テンニス、アクリック、クレー、象棋其ノ他ノ遊戯具(別項ニ掲ケサルモノ)	四四三 阿膠(普通)	四四四 薪火藥	四四五 火藥(各種)	四四六 石膏	四四七 飼草	四四八 象牙製品(別項ニ掲ケサルモノ)	四四九 金銀細貨類(寶石、眞珠等ヲ嵌メタルト否トナ別タス)	四五〇 假製金銀細貨類(寶石、眞珠等ヲ嵌メタルト否トナ別タス)	四五一 貼札(鐵線、砂ニ用ルモノ)	四五二 ランプ、提燈及同部分品	四五三 蠟脂類	四五四 皮革製品(別項ニ掲ケサルモノ)	四五五 麥芽	四五六 マツチ(各種)	
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
四六三 油漆、水漆、石成塗、着色石版、漆、寫眞法、粘帖其ノ他別項ニ掲ケサル各種ノ塗料	四六四 漆骨、木漆、漆及石炭漆	四六五 漆骨、木漆、漆及石炭漆	四六六 骨牌(各種)	四六七 石蠟	四六八 磁器及陶器(別項ニ掲ケサルモノ)	四六九 寶石及眞珠	四七〇 寶石及眞珠(假製ノモノ)	四七一 ボルグ(製紙用ノモノ)	四七二 パツテ、井	四七三 藤(割キタルト否トナ別タス)	四七四 馬具	四七五 白檀	四七六 龍涎(各種)	四七七 吸煙器具(阿片、吸煙具ヲ除ク)	四七八 石鹼	甲 化粧用ノモノ				
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
四七九 滑石(埋粉ノ別タス)	四八〇 スパルテリ(製粉用ノモノ)	四八一 海綿	四八二 石類(別項ニ掲ケサルモノ)	甲 建築用其ノ他工作ヲ經サルモノ	乙 裝飾用若クハ家具用其ノ他工作ヲ經サルモノ	丙 肖像其ノ他彫刻シタルモノ	四八三 海底電線及地下電線	四八四 紫檀	四八五 チキ材	四八六 木材及板(別項ニ掲ケサルモノ)	四八七 花粧具匣	四八八 香水、香油、洗滌劑其他各種ノ脂粉及薰香類	四八九 磁甲製品	四九〇 磁具(各種)	四九一 旅帳、提袋及佩袋	四九二 傘類	甲 絹及絹入ノモノ	乙 其ノ他各種	四九三 傘柄及傘手(金銀製ヲ除ク)	
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	

一九一一年勅令
第五十五号
以テ本稅
ノ
ス
台
灣
ニ
シ
テ

輸入品名	單位	稅率	備考	單位	稅率	備考
三三 乳油	每斤	〇・八六	六七 撒里失爾酸(結晶ト粉末ト別々)	每斤	一・五七	
三四 乾酪	每斤	〇・五四	六八 酒石酸	每斤	〇・七三	
三五 咖啡(種子)	每千箇	〇・八四	六九 亞爾佛佛爾	每斤	〇・三六	
三七 生卵	每百斤	一・一五	七〇 明礬	每斤	一・九八	
三八 麥粉	每百斤	四・六五	七四 白朮	每斤	八・七七	
四〇 ハム及ベーコン	每百斤	〇・六五	七五 次硝銀著粉	每百斤	二・三八	
四二 鮮肉(牛肉)	每百斤	一・八四	七七 硼砂(硼酸鹽)	每百斤	七・二二	
四二 乳膏及乳粉	每百斤	三・七一	八一 桂皮油	每百斤	五・三九	
四四 魚鹽(海鹽ト鹽鹽ト別々)	每百斤	〇・八三	八二 規那皮	每斤	一・七三	
甲 粗製ノモノ	每百斤	一・三七〇	八三 聖古尼烈(鹽酸ト別々)	每斤	〇・九六	
乙 精製ノモノ	每百斤	八・七六	八四 辰砂(赤色硫化汞)	每斤	三・八五	
四五 鹹魚	每斤	三・九二	八五 丁香	每斤	一・九三	
四六 鹹肉(牛肉若ハ豚肉ノ精入ニ爲タルモ)	每斤	五・一三	八六 鹽酸古加乙混	每斤	五・一七	
四七 石花菜	每斤	〇・六二	八九 古倫僕	每斤	九・二七	
四八 茶	每斤	五・一三	九一 阿仙糖及檳榔膏	每斤	三・六四	
六三 肌衣(上下ナ別々ス、メリヤス製ノモノ)	每十二箇	二・四一	九二 佛羅那(龍膽)	每斤	〇・三六	
毛製ノモノ	每十二箇	二・五四	九四 佛羅那	每斤	三・〇七	
毛製ノモノ	每十二箇	二・八二	九五 亞拉昆亞亞	每斤	一・二四	
藥材 化學藥及製藥	每百斤	二・〇三	九六 安息香	每斤	五・六〇	
六六 石炭酸(結晶ノモノ)	每百斤	〇・三六	九九 乳香	每斤	〇・五八	
	每百斤	二・〇三	〇〇 薄荷	每斤	五・一一	
	每百斤	二・〇三	〇一 承度仿膜	每百斤	三・六二	
	每百斤	二・〇三	〇二 吐根	每百斤	四・五八	
	每百斤	二・〇三	〇三 刺桐根	每百斤	二・八二	
	每百斤	二・〇三	〇四 醋酸鉛(鉛糖)	每百斤	九・三三	
	每百斤	二・〇三	〇五 甘草	每百斤	三・五三	
	每百斤	二・〇三	〇六 麻黃	每百斤	三・五三	

第九類 輸入物品稅目

八百七十五

○輸入物品從量稅目 明治三十一年九月
勅令第三百二十號
朕輸入物品從量稅目ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
關稅定率法第三條ニ依リ輸入物品從量稅目左ノ通定ム
本令ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

四九四 汽船帆船及舟艇	五二〇 扇絲	五二三 茶錫
四九五 煤櫃及煤櫃器	五二一 學麻梳理シタルト否ト別々	五二四 紫鉛
四九六 其ノ他稅目中ニ掲ケサル 生粗若クハ米製品	五二二 烏糞	五二五 羊毛、山羊毛及駱駝毛 新故ヲ別々
四九七 其ノ他稅目中ニ掲ケサル 全製若クハ半製	五二三 ゴンニ一糞(新故ヲ別々)	
四九八 燐膏ノ書畫及看板	五二四 ゴンニ一布	
四九九 燐膏	五二五 人造肥料其他別項ニ掲ケサル各種ノ肥料	
五〇〇 地圖、海圖及其ノ他學術圖	五二六 包糖	
五〇一 銀行發利札株券其ノ他各種ノ有價證券	五二七 燐石	
五〇二 書籍習字本習畫本及新聞雜誌	五二八 燐形及工事圖面	
五〇三 金銀(地金)	五二九 油精(塊粉ヲ別々)	
五〇四 各種	五三〇 糖粉阿片(政府ノ輸入スルモノ)	
五〇五 金銀貨幣	五三一 無味香蠟	
五〇六 被綿	五三二 格魯兒酸銅鐵磁斷	
五〇七 絲綿	五三三 赤燐	
五〇八 生綿	五三三 米、粉	
五〇九 熟綿	五三三 草木及苗根	
	五三三 乾粉	
	五三三 茶、茶葉及茶葉	

八百七十四

二七五	苧麻子油(罐入樽入及盞入ノモノ)	〇六〇	三二五	蘭金市	〇一五
二七六	椰子油	一一八	三一六	綾金市	〇一七
二七七	落花生豆油	一一三	三一七	色金市	〇一七
二七八	石油	〇一六	三一九	天竺布(小幅金市)	〇一五
	甲 樽入ノモノ	〇一〇	三二〇	紺金市	〇一八
	乙 樽入ノモノ	〇一〇	三二一	寒冷紗	〇一八
二七九	亞麻子油(罐入及樽入ノモノ)	一七二	三二二	毛製ノモノ	〇一八
二八〇	阿列布油(同上)	二九二	三二三	イタリヤ、クロイツ	〇一八
二八三	松精油(同上)	〇七六	三二四	乙 毛製ノモノ	〇一八
	紙類			甲 生地及白色ノモノ	〇一八
二九二	印刷料紙			乙 染色及形付ノモノ	〇一八
二九九	砂			毛製ヲ以テ織リタルモノ	〇一八
三〇〇	砂			第三	〇一八
	第十五號ヨリ			第四	〇一八
三〇一	水砂糖				〇一八
三〇二	糖蜜				〇一八
	布帛、絲織及同材料				〇一八
三〇四	細織絲(無地若ハ染色ノモノ)	一五三	三三三	縮緬(毛製ノモノ)	〇一八
三〇八	雲織布(生地及晒ノ別ナク)	一八二	三三三	甲 生地及白色ノモノ	〇一八
三〇九	細帆布	二二二	三三五	乙 染色及形付ノモノ	〇一八
三一〇	更紗	一五七	三三七	毛製ヲ以テ織リタルモノ	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四一	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四二	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四三	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四四	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四五	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四六	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四七	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四八	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三四九	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五十	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五一	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五二	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五三	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五四	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五五	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五六	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五七	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五八	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三五九	生絲	〇一八
三一〇	更紗	〇二〇	三六〇	生絲	〇一八

三五八	アランケット(地及絲ニテ織シタ)	〇七一			二六六
三五九	アランケット(平織ノモノ)	九八四			二六六
三六〇	アランケット(平織ノモノ)	二七七			二七四
三六一	アランケット	〇六七			
三六二	アランケット	〇四七			
三六三	アランケット	二六五			
三六四	アランケット	〇二七			
三六五	アランケット	〇二七			
三六六	アランケット	〇二七			
三六七	アランケット	〇二七			
三六八	アランケット	〇二七			
三六九	アランケット	〇二七			
三七〇	アランケット	〇二七			
三七一	アランケット	〇二七			
三七二	アランケット	〇二七			
三七三	アランケット	〇二七			
三七四	アランケット	〇二七			
三七五	アランケット	〇二七			
三七六	アランケット	〇二七			
三七七	アランケット	〇二七			
三七八	アランケット	〇二七			
三七九	アランケット	〇二七			
三八〇	アランケット	〇二七			
三八一	アランケット	〇二七			
三八二	アランケット	〇二七			
三八三	アランケット	〇二七			
三八四	アランケット	〇二七			
三八五	アランケット	〇二七			
三八六	アランケット	〇二七			
三八七	アランケット	〇二七			
三八八	アランケット	〇二七			
三八九	アランケット	〇二七			
三九〇	アランケット	〇二七			
三九一	アランケット	〇二七			
三九二	アランケット	〇二七			
三九三	アランケット	〇二七			
三九四	アランケット	〇二七			
三九五	アランケット	〇二七			
三九六	アランケット	〇二七			
三九七	アランケット	〇二七			
三九八	アランケット	〇二七			
三九九	アランケット	〇二七			
四〇〇	アランケット	〇二七			

第九類 輸入物品従價目

八百七十九

八百七十九

四七二	ハツテ非一				
四七三	條割キタルト百トナ別タス				
四七五	白檀				
四七八	石鹼(洗濯用ノモノ)				
		二三四	四七九	滑石	塊粉ナ別タス
		三九三	四八四	檳榔	
		四三四	四八五	チキ材	
		〇八五			
				每百立方	
				七	〇八九
				六二八	一七五

本税目ニ掲クル所ノ斤ハ帝國ノ度量衡法ニ依ル
「ヤールド」「フート」及「インチ」ハ英國ノ定法ニ依ル
「ポンド」及「トン」ハ英國ノ「アウチイルヂユボイス」秤量ニ依ル
「ガロン」ハ米國ノ「スタンダード」ガロンニ依ル
「リットル」ハ佛國ノ「メートル」量法ニ依ル

〇 噸税法 明治三十二年三月 法律第八十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル噸税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

噸税法

第一條 外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ其ノ入港毎ニ登簿噸數一噸又ハ積 十石ニ付五錢噸稅ヲ課ス但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付十五錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間噸稅ヲ納ムルヲ要セス

帝國ト測度法ヲ異ニスル國ノ船舶ノ登簿噸數ハ帝國ニ於テ定ムル測度法ニ依リ換算ス

第二條 噸稅ハ船舶入港シタルトキ船長ヨリ稅關ニ納付スヘシ

第三條 海難其ノ他止ムヲ得サル事故ニ由リ入港シタル船舶ニハ噸稅ヲ課セス但シ本條ノ事故ニ由ルニアラスシテ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

第四條 稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ測度ヲ爲スコトヲ得

第五條 噸稅ノ進脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ船長ヲ其ノ進脫ヲ圖リ若ハ納付セザリシ税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第六條 犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス但シ通告履行ノ期間ハ通告ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以内トス

第七條 噸稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用セス

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〇 噸税法施行規則 明治三十二年六月 勅令第三百二十號
朕噸税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

噸税法施行規則

第一條 噸税法第一條但書ニ依リ一時ニ噸稅ヲ納付セントスル者ハ其ノ旨稅關又ハ稅關支署ニ申告スヘシ

第二條 稅關又ハ稅關支署ニ於テ噸稅ヲ徵收セントスルトキハ其ノ稅金額及納付金庫ヲ指定シテ納稅人ニ告知スヘシ

第三條 海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ稅關又ハ稅關支署ニ證明スヘシ但シ噸稅ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 噸稅納付済ノ證明又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ稅關又ハ稅關支署ニ申請シ證書一通ニ付手数料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得
第五條 犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關稅法施行規則ヲ準用ス

附則

本令ハ噸稅法施行ノ日ヨリ施行ス

○保稅倉庫法明治三十年三月
法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保稅倉庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保稅倉庫法

第一章 總則

- 第一條 保稅倉庫ハ輸入手數未濟ノ貨物ヲ藏置スル所トス
- 第二條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物ハ其ノ藏置中ハ輸入シタルモノト看做サス
- 第三條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入税ハ其ノ最初庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス
- 第四條 保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ
- 第五條 保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第六條 保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノノ外稅關法及稅關規則ヲ適用ス
- 第七條 保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ滿一箇年トス
- 第八條 保稅倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス

三十年大藏省
令第九號ヲ以
テ本法施行細
則ヲ定ム

三十二年勅令
第三百八十三
號ヲ以テ第三
十條ニ依リ通
路ヲ定ム

第九條 輸入手數未濟ノ貨物ヲ運搬スルトキハ當該官廳ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ニ對スル輸入税金ヲ假納セシムルコトヲ得
前項ノ貨物陸揚申告ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過キテ任向地ニ到達セサルトキハ其ノ輸入税ヲ徵收ス

第二章 官設保稅倉庫

- 第十條 官設保稅倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス
- 第十一條 預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得
- 第十二條 預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨當該官廳ニ届出ヘシ
前項ノ場合ニ於テ民事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無効トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス
- 第十三條 前條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ持參人及届出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其ノ權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス
- 第十四條 藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス
- 第十五條 藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得
- 第十六條 藏置期限ヲ經過シテ貨主貨物ヲ引取ラサルトキハ無請求品トシ當該官廳ハ其ノ貨物ノ記號、番號、品名、箇數等ヲ公告スヘシ
前項公告ノ日ヨリ滿六箇月ヲ經テ之ヲ引取ル者ナキトキハ當該官廳ハ其ノ貨物ヲ競賣ニ付シ輸入税、公告料、競賣手数料、庫敷料其ノ他一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ貨主ニ還付ス

第十七條 藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ハ公告シテ指定ノ期限内ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ當該官廳ハ之ヲ滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限内ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得

前項ニ依リ滅却シタル貨物ニ對シテハ輸入税ヲ徵收セズ

第三章 私設保税倉庫

第十八條 保税倉庫ヲ設ケ輸入手數未濟ノ貨物ヲ保管スル業ヲ營マムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條 私設保税倉庫ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十條 私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付自ラ一切ノ責任ヲ有シ天災事變其ノ他何等ノ事故ニ因ルヲ問ハス貨物紛失滅失シ若ハ盜難ニ罹ルモ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條 私設保税倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保管貨物輸入税ノ擔保トシテ金銀又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條 私設保税倉庫ニハ庫主ニ屬スル貨物ヲ藏置スルコトヲ得ス

第二十三條 私設保税倉庫ニ保管スル貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過グルトキハ輸入税ヲ徵收ス

第二十四條 私設保税倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條 當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保税倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ検査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 私設保税倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

- 一 庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ
- 二 庫主死亡シタルトキ
- 三 庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 四 特許ノ期限滿了シタルトキ
- 五 主務大臣ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條 私設保税倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ當該官廳ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限内ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以内ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ當該官廳ハ之ヲ官設保税倉庫又ハ他ノ私設保税倉庫ノ保管ニ移スヘシ

第二十八條 營業特許ノ消滅シタル私設保税倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保税倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條 第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保税倉庫ニ於ケ

ル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

- 一 業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ
- 二 庫主輸入税ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ
- 三 庫主重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四章 罰則

第三十一條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ貨物ヲ沒收ス若既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第四條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第三十二條 當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ニ貨物ヲ庫入レスルコトヲ得ス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 主務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ私設保税倉庫ノ貨物保管規則又ハ庫敷料ヲ定メクル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第三十四條 第二十五條ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十四圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

附則

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

○關稅法及保税倉庫法ニ依ル通路明治三十二年九月勅令第三百八十三號

朕關稅法及保税倉庫法ニ依ル通路ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
關稅法第三十五條及保税倉庫法第四條ニ依ル通路左ノ如シ

- 橫濱新海間 官設鐵道、日本鐵道及北越鐵道
- 橫濱大阪間 官設鐵道
- 四日市大阪間 關西鐵道
- 大阪敦賀間 官設鐵道
- 大阪神戸間 官設鐵道
- 小樽室蘭間 北海道炭礦鐵道
- 門司博多間 九州鐵道
- 博多長崎間 九州鐵道

○國稅徵收法明治三十年三月法律第二十一號

沿革略記 明治五年九月第二百八十五號布告ヲ以テ租稅延納者處分ヲ定ム●九年一月第四號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス
●十年十一月第七十九號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ租稅未納處分ヲ定ム●二十二年三月法律第九號ヲ以テ國稅徵收法ヲ制定ス○同年十二月法律第三十二號ヲ以テ租稅未納處分ヲ廢シ國稅延納處分ヲ制定ス●三十年三月法律第二十一號ヲ以テ國稅徵收法及國稅延納處分法ヲ廢シ更ニ國稅徵收法ヲ制定ス

三十年大藏省令第十號ヲ以テ本法ノ施行規則ヲ定ム

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財產上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨ
リ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シ
テ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破
産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之
ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタルトキ亦同シ

納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ
對シテ先取セサルモノトス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付ス
ルノ責任アルモノトス

前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町
村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納
付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵
收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大
臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審查シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督
促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料ヲ徵收ス

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手數料及税金ヲ完納セサルトキハ其ノ財產ヲ差
押シヘシ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證書ヲ示
スヘシ

第十二條 差押フヘキ財產ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ

得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ
第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日前マテニ所有者タルノ證憑ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ
第十五條 滞納處分ヲ執行スルニ當リ滞納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得
第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
二 滞納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑、墓地
五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
七 勳章其ノ他名譽ノ章票
八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
- 二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十七條 左ニ掲クル物件ハ他ニ滞納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス
第十九條 滞納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ
第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滞納者ノ家屋、倉庫及篋匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉篋匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滞納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滞納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族雇人又ハ市町村吏員市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區戸長及其ノ副區吏員若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ區戸長ニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但シ不動産又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其保管ヲ滞納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收税官吏ニ對シテ滞納處分費及税金額ヲ限トシ自己ノ價務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滞納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價額見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ督促手数料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、通信費及訴訟費用トス

滞納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテラ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ但シ第三條ニ掲ケタル買入書入ノ物件ニ關シタリ其ノ代金ヨリ先ツ滞納處分費ヲ徵シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツルマテラ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滞納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス

名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分ノ終了ヲ以テ終ル滞納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滞納處分終了スルモ滞納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滞納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第三十二條 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四章 罰則

第九條 國稅徵收法

第六百九十三

第三十三號勅令
第四十七號
以テ北海道
制ニ依ル區ハ
公團體トス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ
情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス
前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以
之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三
年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○國稅徵收法施行規則明治三十年六月
勅令第二百二十一號

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記
載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第二條 各市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏其ノ金額ヲ調査シ之ヲ市町村ニ通知スヘシ
市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知

書ヲ發スヘシ

第三條 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ税金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付ス
ヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ノ領收シタル税金ハ送付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第六條 市町村ニ於テ徵收シタル納金ハ滯滞ナク漸次之ヲ金庫ニ送付シ遲クトモ納期後三日ヲ
過クルコトナカルヘシ

第七條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地
方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申出ヘシ

前項ノ申出アリタルトハ地方長官事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條 市町村ハ納期内ニ税金ノ徵收ヲ了ラサルモノアルトキハ納期後五日以内ニ其ノ滯納者
ノ住所氏名及滯納ノ金額等ヲ收稅官吏ニ報告スヘシ

第九條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若
ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納稅人タル會社ヲ解散ヲ爲シタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサル
モ左ニ掲クルモノハ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但シ納期ニ到リ納稅ニ妨

ナシト認ムルモノハ此ノ限ニアラズ

一 納稅告知書ヲ發シタル諸稅

二 造石數査定濟ノ酒類混成酒並醬油ノ造石稅

三 當該年分ノ自家用酒製造稅

第十條 國稅ノ滯納ニ因リ其ノ滯納處分ヲ執行スルニ際シ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅

ヲ徵收セムトスル場合ニハ收稅官吏ハ滯納處分費滯納稅金ト共ニ之ヲ徵收スヘシ

前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ滯納者ニ告知スヘシ

第十一條 納稅人他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若ハ破産ノ宣告

ヲ受ケ又ハ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅

ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ第三十八條第三十九條第四十條ニ準シテ其ノ稅金ノ交付

ヲ求ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ納稅人ニ告知スヘシ

第十二條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ對シ

督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トテシ一通毎ニ金五錢ヲ徵收ス

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産差押ヲ爲ストキハ滯納處分費及稅金ニ充ツル金額ヲ限度トシ

徵收ニ便利ナリト認ムル財産ヲ差押フヘシ

第十四條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財産ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ滯納處分費及稅

金額等ヲ示シ之ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十五條 國稅徵收法第三條ニ依リ國稅ノ徵收ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前條ノ通知ヲ受ケ

其ノ權利ヲ行使スルニ當リ其ノ證明書類ヲ添付シテ其ノ事實ヲ證明スルモノハ、其ノ職權ノ範圍

前項ノ場合ニ於テ提出シタル公正證書ハ官吏又ハ公吏其ノ職權ヲ以テ調製シタルモノトス

第十六條 債權者差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ債權者ニ通知シ滯納處分費及稅金ニ相當スル

金額ヲ債務辨濟ノ時期ニ納付スル旨ヲ求ムル旨ヲ第三者ニ通知スヘシ

第十七條 天然及法定ノ果實ヲ生スヘキ財産ヲ差押ヘタルトキ第三者ヨリ果實ノ引渡又ハ仕拂

ヲ受ケル場合ニハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ第三者ニ通知スヘシ

第十八條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財産ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執

達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ

第十九條 差押ノ執行ニ當リ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ハ其ノ財産所在地ノ收稅官吏ニ滯

納處分ノ引渡ヲ爲シテ之ヲ執行スルモノトシ

第二十條 差押ノ執行ニ當リ其ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就テ滯納處分ヲ爲シ

其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第二十一條 國稅徵收法第三十九條ニ依リ無限責任社員ニ就キ滯納處分ヲ爲ストキハ收稅官吏

ハ無限責任社員ノ其人ノ持分ノ及ハ不同時若シテ總員持分ノ之ヲ執行スルモノトシテ之ヲ執行スルモノトシ

第二十二條 數人共同ノ所有物件又ハ事業ニ係ル税金ノ滞納ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自ノ負擔ニ屬スル金額ニ就キ滞納處分ヲ爲スヘシ但シ數人連帶シテ納稅義務ヲ負擔スル場合ニハ前條ノ例ニ依ル

第二十三條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第二十四條 收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書ニ通テ調製シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

前項差押調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滞納者ノ住所氏名
二 差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
三 差押ノ事由

四 調書ヲ作リタル場所年月日
二十五條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ登記ヲ受クヘシ

第二十六條 差押ヘタル財産ヲ公賣セムトスルトキハ三日以上差押財産所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戸長役場ノ揭示場ニ公告スヘシ

前項公告ノ外仍必要ト認ムルトキハ便宜他ノ場所若ハ新聞紙ニ公告スヘシ

第二十七條 財産公賣ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
一 滞納者ノ住所氏名

二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
三 入札又ハ競賣ノ場所、日時

第四十開札ノ場所、日時
五 其保證金ヲ徵スル下等ニ其ノ金額

第六十代金納付ノ期限
第三十八條 國稅徵收法第二十五條ニ依リ隨意契約ヲ以テ差押財産ヲ賣却セムトスルトキハ見積價格ヲ示シテ豫メ其旨ヲ滞納者ニ通知スヘシ

第二十九條 公賣ノ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第三十條 公賣押財産ヲ公賣スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スル

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ滞納處分費ニ充テ仍殘餘アレハ政府ノ所得

第三十一條 公賣ノ差押財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲タズ但シ收稅官吏必要ト認ムル所ニ於テ之ヲ爲シ得

前項ノ規定ハ第三十八條ノ賣却ニ關シテモ之ヲ適用ス

第三十二條 公賣ハ公債ノ整理ノ爲メ其ノ期間ヲ短キ之ヲ執行スル得ルモ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ恐れアルモノナルトキハ此ノ限

第三十三條 差押財産ヲ公賣セムトスルトキハ收税官吏ニ於テ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封

第三十四條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ヲ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル

第三十五條 差押財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキ又ハ見積價格以上ノ入札人ナキトキ

第三十六條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セザルトキハ其ノ買買ハ

第三十七條 前二條ニ依リ再度公賣爲メ場合ニ於テ第三十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ

第三十八條 國稅ノ滞納者他ノ公課ノ爲メ滞納處分ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘラレタル場合ニ於

テ滞納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滞納處分費

及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收税官吏ハ他ノ公課ニ係ル滞納處分ヲ執行スル官廳

第三十九條 國稅ノ滞納者他ノ債務ノ爲メ強制執行ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘラレタル場合ニ於

テ滞納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滞納處分費

及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收税官吏ハ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ

第四十條 滞納者破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ滞納者タル會社ヲ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ滞納處分

第四十一條 滞納處分ヲ結了シタルトキハ收税官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滞納

者ニ交付スヘシ

第四十二條 國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ債權者ニ交付スヘキ金額ハ計算書ヲ滞納者ニ

第四十三條 國稅徵收法第三十條第二項ノ公告ハ名宛人ノ住所又ハ事務所所在地ノ市役所區役

所町村役場若ハ戸長役場ノ揭示場ニ三日以上揭示シ仍必要アリト認ムルトキハ新聞紙ニ公告

第四十五條 市制町村制ヲ施行セサル地方（稅務署所在ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村內ノ國稅稅額ヲ除ク）稅收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第四十六條 北海道水產稅ハ水產物營業人組合ニ於テ徵收シ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第四十七條 前二條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長若ハ水產物營業人組合ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準ジ之ヲ稅務署收稅官吏ニ報告スヘシ

○市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅（明治三十年六月勅令第九十五號）

- 朕市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ
- 一 第三種ノ所得ニ係ル所得稅（三十二年勅令第二百十九號ヲ以テ改正）
 - 二 營業稅（三十二年勅令第二百十九號ヲ以テ改正）
 - 三 自家用煤油稅（三十三年勅令第四百十五號ヲ以テ追加）
 - 四 賣藥營業稅
 - 五 北海道地方稅（三十三年勅令第四百十八號ヲ以テ追加）

附則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

○市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅（明治三十年七月一日ヨリ施行ス）

○沖繩縣小笠原島伊豆七島國稅徵收方（明治二十二年十二月勅令第四百四十二號）

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

- 第一條 納稅人ハ稅金（沖繩縣酒類出納稅額ヲ除ク）ヲ金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ（二十七年法律第十八號ヲ以テ條中改正）
- 第二條 國稅品ハ納稅人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ
- 第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ

○間接國稅犯則者處分法（明治三十三年三月法律第六十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル間接國稅犯則者處分法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 間接國稅犯則者處分法（明治三十三年三月法律第六十七號）

第一條 間接國稅ニ關スル犯罪則アルトキハ收稅官吏ハ犯罪事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯罪事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯罪事件ヲ調査スル爲必要ト認ムルトキハ犯罪嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第五條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收稅官吏搜索ヲ爲スルキハ搜索ニベキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇入、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條 收稅官吏犯罪事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目録ヲ作ルコトヲ得

第八條 差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得

第九條 管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條 差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務管理局長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第十一條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得

第十二條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十三條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ願末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ

第十四條 立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十五條 犯罪事件ノ證憑採取ハ事件發見地ノ收稅官吏之ヲ爲ス同一犯罪事件ニ付數稅務署管轄區域内ニ於テ發見セラレタルトキハ各發見地ニ於テ採取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地ノ收稅官吏ニ引續クヘシ

第十六條 收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯罪事件ニ關聯シ他ノ稅務署ノ管轄區域内ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯罪事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑

託スルコトヲ得

第十三條 收稅官吏犯罪事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務管理局長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

- 一 犯罪嫌疑者ノ居所分明ナラザルトキ
- 二 犯罪嫌疑者逃走ノ虞アルトキ
- 三 證據湮滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務管理局長ハ犯罪事件ノ調査ニ依リ犯罪ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ犯罪者通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條 犯罪者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第十七條 犯罪者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セザルトキハ稅務管理局長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 犯罪事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ
前項ノ差押物件所有者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼ヲ爲シ差押物件引繼ノ旨

ヲ保管者ニ通知スヘシ

第十九條 稅務管理局長犯罪事件ヲ調査シ犯罪ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ旨ヲ犯罪嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之ヲ解除ヲ命スヘシ

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

○間接國稅犯罪者處分法施行規則明治三十三年三月勅令第五十二號

朕間接國稅犯罪者處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯罪者處分法施行規則

第一條 間接國稅犯罪者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

- 一 酒造稅
 - 二 釀成酒稅
 - 三 沖繩縣酒類出港稅
 - 四 醬油稅(自家用醬油稅トモ)
 - 五 賣藥印紙稅
 - 六 印紙稅
- 第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシ

第三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、簡數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ヲ附本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條 稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條 稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第八條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル頭末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ヲ送達シテ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徴スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條 稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接ト間ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

附則 本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル規定(明治三十三年三月法律第五十二號) 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律ヲ裁

可以茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罪則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科刑以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セザルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事

ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

○第十類 學事

○教育ニ關スル勅語 明治二十三年十月
文部省訓令第八號
今般教育ニ關シ

勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其際本ヲ願テ本大臣ノ訓示ヲ發ス管内公私立學校へ各一通ヲ交付シ能ク
聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ
別紙

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

訓示

謹テ惟フニ我カ
天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ悉ク
勅語ヲ下タシタマン顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ摺フ所ヲ愆ランコトヲ恐ル今
勅語ヲ奉承シテ咸奮措ク能ハス謹テ
勅語ノ謄本ヲ作り普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツルノ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ
聖意ヲ奉體シテ研磨盡陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ
勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

○學校令

沿革記 明治三年二月大甲ニ於テ大中小學ノ規則ヲ定ム●四年十一月布告ヲ以テ府縣學校ハ自今總テ文部省ニ管轄セ
シム○同年十二月文部省布告ヲ以テ東京府下ニ共立小學校洋學校女學校ヲ開キ規則ヲ定メ士民學費ヲ納レ就
學スルコトヲ許ス●五年八月第二十四號布告ヲ以テ自今華士族農工商及婦女子ヲシテ必ス就學セシムルモノトシ尋
テ文部省布告ヲ以テ學制ヲ定メ全國ヲ區分シテ大中小學區トス●十二年九月第四十號布告ヲ以テ前ノ學制ヲ廢シ更ニ
教育令ヲ制定ス●十三年十二月第五十九號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス●十八年八月第二十三號布告ヲ以テ復々前令ヲ改
正ス●十九年三月勅令第三號ヲ以テ帝國大學令ヲ定メ同年四月勅令第十三號ヲ以テ師範學校令第十四號ヲ以テ小學校
令第十五號ヲ以テ中學校令第十六號ヲ以テ諸學校通則ヲ定ム●二十三年十月法律第八十九號ヲ以テ地方學事通則ヲ定
ム○同年同月勅令第二百十五號ヲ以テ小學校令ヲ改正ス●二十七年六月勅令第七十五號ヲ以テ高等學校令ヲ定ム●三
十年六月勅令第二百八號ヲ以テ帝國大學ヲ東京帝國大學ト改稱ス○同年同月勅令第二百九號ヲ以テ京都帝國大學令ヲ
公布ス○同年十月勅令第三百四十七號ヲ以テ師範教育令ヲ制定シ十九年勅令第十三號師範學校令ヲ廢止ス●三十二年
二月勅令第二十八號ヲ以テ中學校令ヲ改正ス○同年同月勅令第二十九號ヲ以テ實業學校令ヲ定ム○同年同月勅令第三

十一號ヲ以テ高等女學校令ヲ定ムルニ付
○帝國大學令 明治十九年三月
勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令

- 第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攻究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス
- 第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術技藝ノ蘊奧ヲ攻究シ定期ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス
- 第五條 帝國大學總長ハ帝國大學ヲ總轄シ帝國大學内部ノ秩序ヲ保持ス(二十六年勅令第八號ヲ以テ改正)
- 第六條 帝國大學ニ評議會ヲ設ク(同)評議會ハ各分科大學長及各分科大學教授各一名ヲ以テ會員トス帝國大學總長ハ評議會ヲ召集シ其ノ議長トナル
- 第七條 教授ニシテ評議員タルモノハ各分科大學毎ニ教授ノ互撰ニ依リ文部大臣之ヲ命ス(上同)前項ノ評議員ハ三箇年ヲ以テ任期トス但滿期ノ後再撰セララル、コトヲ得
- 第八條 評議會ハ左ノ事項ヲ審議ス(二十五年勅令第七十五號及二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)

第一 各分科大學ニ於ケル學科ノ設置廢止ノ件

第二 講座ノ種類ニ付諮詢ノ件

第三 大學内部ノ制規但勅令又ハ省令ヲ發スルノ必要アルモノハ其建議案

第四 學位授與ノ件

第五 其他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

評議會ハ高等教育ニ關スル事項ニ付キ其ハ意見ヲ文部大臣ニ建議スルモノヲ得

第九條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學及科大學理科大學農科大學トス(上同)

第十條 分科大學長ハ分科大學ノ學務ヲ統理ス(二十三年勅令第九十三號及二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)

第十一條 各分科大學ノ教官ハ教授及助教トス(二十三年勅令第二百六十九號及二十六年勅令第八十二號ヲ以テ改正)

第十二條 必要アル場合ニ於テハ帝國大學總長ハ講師ヲ囑託スルコトヲ得(二十六年勅令第八號)

第十三條 帝國大學ニ功勞アリ又ハ學術上功績アル者ニ對シ勅旨ニ由リ又ハ文部大臣ノ奏宣ニ由リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ(上同)

第十四條 各分科大學ニ教授會ヲ設ケ教授ヲ以テ會員トス(二十三年勅令第二百六十九號ヲ以テ削除シ二十六年勅令第八十二號ヲ以テ更ニ本條ヲ加フ)

分科大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル

第十五條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス(二十六年勅令第八十二號ヲ以テ本條以下ヲ追加ス)

第三 分科大學ノ學科課程ニ關スル件

第三 學生試験ノ件

三十二年勅令第
二百三十三號ヲ以テ
東京帝國大學ノ
ノ上ニテ加フ

第三 學位授與資格ノ審査

第四 其ノ他文部大臣又ハ帝國大學總長ヨリ諮詢ノ件

第十六條 分科大學長ハ必要アリト認ムルトキハ教授ノ外助教授又ハ囑託講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十七條 各分科大學ニ講座ヲ置キ教授ヲシテ之ヲ擔任セシム

教授ヲ缺ク場合ニ於テハ助教授又ハ囑託講師ヲシテ講座ヲ擔任セシムルコトアルヘシ

第十八條 講座ノ種類及其數ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○東京帝國大學各分科大學講座ノ種類及其ノ數ヲ定ム明治二十六年九月勅令第九十三號

朕帝國大學各分科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京帝國大學各分科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 法科大學
 - 憲法、國法學 二講座
 - 民法 三講座
 - 商法 二講座(三十二年勅令第八十七號ヲ以テ一ヲニ改ム)
 - 民事訴訟法 一講座

- 刑法
 - 刑事訴訟法 一講座(三十二年勅令第八十七號ヲ以テ刑法)
 - 經濟學、財政學 三講座
 - 統計學 一講座
 - 政治學 一講座(三十二年勅令第八十七號ヲ以テ政治)
 - 政治史 二講座(上全)
 - 行政法 一講座
 - 國際公法 一講座(三十二年勅令第三十五號ヲ以テ國際法ヲ別リ本項ヲ追加ス)
 - 國際私法 一講座(上全)
 - 法制史、比較法制史 一講座
 - 羅馬法 一講座
 - 英吉利法 二講座
 - 佛蘭西法 一講座
 - 獨逸法 一講座
 - 法理學 一講座
 - 醫科大學
 - 解剖學 三講座(三十二年勅令第八十七號ヲ以テニテ三ニ改ム)
 - 生理學 一講座

第九類 東京帝國大學各分科大學ノ講座種類及其ノ數ヲ定ム

醫化學	一講座
病理學、病理解剖學	二講座
藥物學	一講座
內科學	三講座
產科學、婦人科學	一講座
小兒科學	一講座
外科學	三講座
眼科學	一講座
皮膚病學、微毒學	一講座
精神病學	一講座
衛生學	一講座
法醫學	一講座
耳鼻咽喉科學	一講座
藥學	三講座
齒工科大学	一講座
土木工學	三講座
機械工學	四講座
造船學	三講座

船用機關學	一講座
造兵學	一講座
電氣工學	三講座
建築學	三講座
應用化學	三講座
火藥學	一講座
探礦學、冶金學	一講座
材料及構造強弱學	一講座
文科大學	四講座
國語學、國文學、國史	三講座
漢學、支那語學	二講座
史學、地理學	二講座
哲學、哲學史	二講座
心理學、倫理學、論理學	一講座
社會學	一講座
教育學	一講座
美術學	一講座
言語學	一講座

第一條 京都帝國大學ヲ置キ京都帝國大學ニ稱ス
 第二條 京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學醫科大學文科大學及ヒ理工科大學トス

第三條 京都帝國大學ノ分科大學及ノ分科大學中各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム

○京都帝國大學理工科大學講座 明治三十年六月 勅令第二百十九號

朕京都帝國大學理工科大學講座ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

京都帝國大學理工科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 理科大學
 - 數學 二講座
 - 物理學 三講座
 - 化學 五講座(三十三年勅令第百八號ヲ以テ改正)
 - 土木工程 四講座(三十二年勅令第百三號ヲ以テ改正)
 - 機械工学 四講座(全)
 - 電氣工学 三講座(全)
 - 探礦學 二講座
 - 冶金學 二講座

○京都帝國大學法科大學及醫科大學講座 明治三十二年七月 勅令第三百二十一號

朕京都帝國大學法科大學及醫科大學講座ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 京都帝國大學法科大學及醫科大學ニ置クヘキ講座ノ種類及其ノ數左ノ如シ

- 法科大學
 - 憲法 一講座
 - 國法学 一講座
 - 民法 三講座
 - 商法、破産法 二講座
 - 民事訴訟法 一講座
 - 刑法、刑事訴訟法 一講座
 - 經濟學 三講座
 - 財政學 一講座
 - 統計學 一講座
 - 政治學、政治史 二講座
 - 行政法、行政學 一講座
 - 國際公法 二講座

- 國際私法 二講座
- 法制史、比較法制史 一講座
- 羅馬法 二講座
- 英吉利法 二講座
- 佛蘭西法 一講座
- 獨逸法 二講座
- 法理學 一講座
- 東京醫科大學 一講座
- 解剖學 二講座
- 胎生學 三講座
- 生理學 一講座
- 醫化學 一講座
- 病理學 一講座
- 第一病理解剖學 東京醫科大學 一講座
- 東京藥物學大學 東京醫科大學 一講座
- 東京內科學大學 東京醫科大學 一講座
- 產科學 一講座

- 婦人科學 一講座
- 小兒科學 一講座
- 外科學 三講座
- 眼科學 一講座
- 皮膚病學、微毒學 一講座
- 精神病學 一講座
- 衛生學 二講座
- 法醫學 二講座
- 耳鼻咽喉科學 一講座
- 齒科學 二講座
- 第二條 明治三十二年九月ヨリ開始スヘキ講座ノ種類及其ノ數左ノ如シ
- 內科法科大學 二講座
- 憲法 一講座
- 國法學 一講座
- 民法 二講座
- 商法 一講座
- 民事訴訟法 一講座
- 刑法、刑事訴訟法 一講座
- 行政法 一講座

○師範教育令 明治三十年十月 勅令第三百四十六號
朕師範教育令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範教育令

- 第一條 高等師範學校ハ師範學校「尋常」中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順其信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ
- 第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス
- 第三條 高等師範學校女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
- 第四條 師範學校ノ經費 北海道及沖繩縣ヲ除ク 府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 第五條 師範學校設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業生ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外交部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得

第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

第十條 則 附則

第十一條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條 他ノ法令中尋常師範學校下アル本令施行ノ日ヨリ當然師範學校改正セザレタルモノ

○師範學校生徒定員 明治三十年十月 勅令第三百四十七號
朕師範學校生徒定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 師範學校生徒定員
- 第一條 師範學校ハ道府縣管内學齡兒童數三分ノ二ニ對シ一學級七十名ノ割合ヲ以テ算出スル全學級數ノ二十分ノ一以上ニ相當スル卒業生ヲ出スニ足ルヘキ生徒ヲ毎年募集スヘシ
- 第二條 男女生徒員數ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第三條 地方ノ情況ニ依リ女生徒ヲ置カサルトキハ其ノ事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

附則

第十條 師範學校生徒定員

第四條 本令は明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

設備ノ都合ニ依リ已ムヲ得タル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項期限ヨリ
一箇年以内生徒定員ニ關スル從前ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

○地方學事通則明治三十三年十月
法律第八十九號

朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第一百七條ヲ適用ス

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ヲ爲之ヲ數區ヲ分畫スルハテ
前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第一百三條町村制第十四條ノ規
程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地
家屋ヲ所有シ營業(店舗等)定メテ行商ヲ爲スル者ニ於テ設置維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所
有財產ノ一部ハ其收入ヲ以テ先ニ其費用充テハテ餘額其ノ餘額並ニ材料費ハ文部大臣ニ呈ム

市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教育

事務ヲ補助執行ス

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル
法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ
兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干
校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ
委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會
ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルト
キモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ
市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置ク
コトヲ得

第七條 市町村立學校校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三
十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲

戒規程ヲ裁令ニ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村學校組合及市町村校內若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得

第十條 府縣郡市町村學校組合及市町村校內若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財産トナスニシテ低額附著其費用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十二條 府縣郡市町村制ニ規定シタル内務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就テハ内務大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申

ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

○小學校令(明治二十三年五月)
小學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 小學校ノ本旨及種類

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ一人若クハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第二章 小學校ノ編制

第三條 尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス

土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歴史圖書唱歌手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第三十二年勅令第九號
第三十三年勅令第二十號
第四百二十號
第三十三年勅令第二十號
第三十三年勅令第二十號
第三十三年勅令第二十號

第四條 高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本地理日本歴史外國地理理科圖畫唱歌體操トメ女兒ノ爲メニハ裁縫ヲ加フルモノトス

土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得又幾何ノ初歩外國語農業商業手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置クコトヲ得

第六條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條 尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇年又ハ四箇年トス

第九條 專修科補習科「徒弟學校及實業補習學校」ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セザルコトヲ得

第十一條 第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置キ又ハ其併置ヲ止ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

ヲ受クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 小學校教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘキ場合一教員ノ教授シ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條 小學校ノ休業ハ日曜日ヲ除ク外毎年九月十日ヲ超エザルモノトス但「徒弟學校實業補習學校」補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依ラサルコトヲ得傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市内ニ在ル小學校ニ就キテハ府縣知事町村內ニ在ル小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テハ市町村長ニ於テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條 小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十六條 小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員ニ於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

二十六號勅令
百四號ヲ以テ
小學校令ヲ改
正シ中學校令
ニ加ヘ府縣知
事ノ制

ヲ施行セシムル
地方ニ於テハ
府縣官廳ニ
照会シテ
參事員ニ代
ハシテ
員トス

審査委員ハ府縣ニ置キ府縣官廳府縣參事會員「尋常」師範學校長教員及小學校教員ヲ以テ之ヲ組織ス
審査委員及審査ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備ヘ又農科ヲ設ケル小學校ニ於テハ農業練習場ヲ
備フヘキモノトス

特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備ヘサルモノトシ得此場合ニ於テハ市町村立小學校ニ就
キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於
テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的ニ關セサル事
件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セシムルトキハ市町村立小學校ニ就
キテハ其ノ市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者
ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就テハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ基キ府
縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章 就學

第二十條 兒童滿六歲ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ニ就學セシムルノ義
務アルモノトス

前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始ヨリ在ルモノトス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其要件ハ文部大臣之ヲ規定ス

第二十一條 貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムヲ得テノ事故ツ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト
能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナルコト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要アリト認ムルト
キハ學齡兒童若シハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就テハ検査ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ検査ニ依リ就學ノ猶豫シ又ハ免除スルコトキハ監督官廳
ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校
ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修シシムルトキハ其市町村
長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家庭中ニ傳染病者アル兒童又ハ不良ノ行
爲アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ郡長ノ許可ヲ受ク
第二十四條 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム文部大臣ノ許可ヲ受ク

第四章 小學校ノ設置
市町村長ハ其市町村ニ在ル小學校ノ設置ニ關シテ其市町村ノ利益ニ依リ之ヲ定ムル所ノ準則ニ基キ之ヲ決定ス

第二十五條 各市町村ニ於テ其市町村内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置ス
町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ一町村
ト同視ス

第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘ
町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム府縣知事ノ許
可ヲ受クヘシ

第二十七條 郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スルキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場
合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ
設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數ニ尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定ス
ル場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數ニ尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道路ノ遠隔若ク
ハ困難ナルカ爲適度ノ通學路程内ニ於テ尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハス
ト認定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ
一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置ス
ヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ
二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村

學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村
ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テ前項ノ例ニ依ルヘシ
郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二ノ例ニ依ルヘ
シ

第二十九條 郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルニシテハ關係町村及郡
參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並
位置ヲ定ムルトキモ亦同シ

第三十條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校校數及於テハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ
又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其ニ區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其使用スヘキ
小學校ヲ指定スルコトヲ得

郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアリトシ其他必要ノ事情アルトキ
ハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫シテ
數區トナシ其ニ區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲其使用
スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

一 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ

二 町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區內ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ

三 町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部內ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアルトキ

本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ

本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條 郡長ハ第二十八條第一項ノ事務アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ク其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ク其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶郡長ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ得

村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條 町村ハ一町村限リ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シテ附設尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ其學校組合ヲ設クルノ協議ヲナスノ際併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニテ之ヲ解クコトヲ得

郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指批ヲ受クヘシ

第三十五條 府縣知事ハ市内ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村內若クハ町村學校組合內ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關ル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

二十四年文部省令第一號ヲ以テ私立小學校代用規則ヲ定ム

第二十六條 市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第二十七條 町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ
本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十四條ヲ適用ス

第三十八條 「第二十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス」
第三十九條 第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及「第三十八條」ニ掲ケル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條 市町村ハ幼稚園「圖書館」盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十九條ノ規程ヲ適用ス

第四十一條 私立ノ小學校幼稚園「圖書館」盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ

第四十二條 第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第五章 小學校ニ關シテ府縣知事市町村ノ負擔及授業料

第四十三條 市町村立小學校ノ設置ニ關ル市町村及町村學校組合並區ノ負擔ノ概目左ノ如シ
一 校舍校地校具體操場農業練習場ノ供給及支持

二 小學校教員ノ俸給旅費等

三 小學校ニ關スル諸費

第四十四條 市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ

授業料ハ市町村ニ屬スル收入トシ
一家ノ兒童同時數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得

市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者發病ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ
授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得

授業料規則 定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十五條 郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ學校組合内ノ某町村ヲシテ其數校中ノ一校若クハ若干校ヲ設置ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内某町村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得
本條ノ處分ヲシテ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四十六條 郡長ニ於テ町村學校組合ノ資力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定シ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡長郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

第三十年勅令
第四百七號
第三十一號
第六十六號
第六十七號

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ
第四十七條 郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡費
ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ
第四十八條 府縣知事ニ於テ市ノ實力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルト
キハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ
第四十九條 府縣知事ニ於テ郡ノ實力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定
スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ
第五十條 區長並其代理者及學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若
クハ町村學校組合ノ負擔トス但區長並其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村
學校組合會ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條 (三十二年勅令第二百六) 十二條ヲ以テ廢止ス
第五十二條 小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ並小學校教科用圖書
査査委員及査査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章 小學校長及教員

第五十三條 小學校ノ教員中小學校ノ某教科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス
小學校ノ教員中小學校ノ教員補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員
トス

第五十四條 小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ
第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス
檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之
ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀教員候補者等ニ關スル規則ハ文部大
臣之ヲ定ム

第五十六條 小學校長及教員ハ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
第五十七條 市町村立小學校長及教員ハ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十八條 市町村立小學校長及教員ハ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ
第五十九條 (三十二年勅令第二百六) 十二條ヲ以テ廢止ス
市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之ヲ兼任スルモノトス
第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及退職金ハ檢定檢定給料額並其檢定給料額ノ支給方法ハ府縣知
事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

(三十年勅令第二號ヲ以テ第二項ヲ削除ス)

市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其歩合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定ス其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ得

第六十一條 小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十二條 市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十三條 小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ罷責罰俸免職免許狀褫奪トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ

免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以内ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則並私立小學校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條 小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑

ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セララル、モノトス

第七章 管理及監督

第六十六條 (三十二年勅令第二百六十二號ヲ以テ廢止ス)

第六十七條 (上全)

第六十八條 (上全)

第六十九條 (上全)

第七十條 市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ首席教員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條 市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第二百二十四條町村制第二百二十八條ヲ適用ス

第七十二條 市ハ教育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中教員以外出資者ハ市長之ヲ任免ス

第七十三條 市ハ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第十編 小學校令 九百四十五

第七十四條 府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條 市ハ教育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得 委員ニハ市立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第七十六條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ市長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條 市ノ區長及其代理者並第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ市制第二百二十四條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 市制第二百二十四條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第七十八條 第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條 町村ハ教育事務ノ爲町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス 委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分之一ニ下ルコトヲ得ス 委員中教員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス

第八十條 町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス

第八十一條 府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條 町村ハ教育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ町村内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得 委員ニハ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條 府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ町村長區長並其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條 町村ノ區長及其代理者並第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第二百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第二百二十八條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條 第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者並學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八十六條 町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得 町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合内ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得 本條ニ委員トシテ町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條 町村學校組合ハ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス
府縣知事ハ町村學校組合内ノ區ノ學務委員ヲシテ區區屬スル國ノ教育事務ニ就キ組合長ヲ補助セ
シムルコトヲ得

第八十八條 第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キ
テハ左ノ例ニ依ル

一 町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第百
二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二 町村制第百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條 第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知
事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カ
サルコトヲ得

第九十一條 文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ戾ルモノアルトキハ府縣知事ニ命シテ
之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十二條 前諸條ニ掲クル教育事務トハ専ラ小學校教育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ指フ

第八章 附則

第九十三條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具
申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十四條 幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用ス
ルコトヲ得但尋常小學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス

第九十五條 本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正教員
准教員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條 明治十九年^四勅令第十四號小學校令其他本令ニ抵觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ
其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

前項徒弟學校ノ設置廢止ハ其ノ府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘク郡立ニ係ルモノハ
府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

○小學校令施行方明治二十四年一月 勅令第五號

朕小學校令ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ハ其全部施行シ難キ事狀アル地方ニ限リ府縣知事ノ具
狀ニ依リ文部大臣ノ指揮ヲ以テ其一部ヨリ漸次施行スルコトヲ得

○從來ノ市町村立小學校一時存續方明治二十四年三月 勅令第十九號

朕明治二十三年^十勅令第二百十五號小學校令ノ施行ニ際シ從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム